



色 百 人 百  
察 觀 の 會 社

225  
425



特22  
616

自序

敵を知り己を知るものは必ず勝つ矣。

孫子千年の。後を。欺か。ざる。なり。故に余は今之をいふ。世  
事に長ずるに非ざれば、時代の成功子となる可らずと  
本書是に於て乎、始めて時代の。大陽なり。

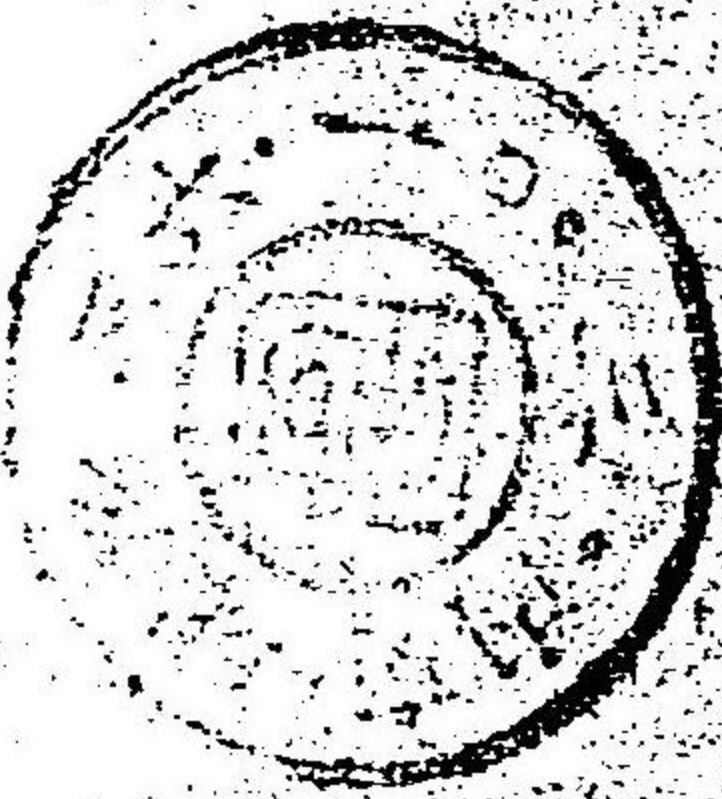
三十六年七月中旬

滄

浪



緒言



滄浪著

ソクラテス曰く「何にも知らぬ」而して千歳の下此語は活て居る。僕等の如きものが伊尹の眞似をして先智先覺をいふことも其分ではあるまい。でも人は直ちに天と合して居る、今僕が五尺の單身を天に捧げてアヲニアン山を飛越へる勇氣を出すならば、何伊尹の自負に孔子の權威を加ふことは朝飯前だ。

其處で僕はソクラテスの「何にも知らぬ」も克く酌んで居るが尙其上自分自分の見た所の一部であるてふことも知つて居るけれど昔印度のフミがいつた如く小さい種子の中に大なるものが宿つて居るのであるから、先我此小なるものに「こんな大きな人生が寫つたか」を殊にこれを國家人類といふ方面に重きを置いて次の如く筆を立てた。



目次

緒言

戸主と女權

立關番

交際

(い) 國交

(ろ) 私交

官吏の欠點

(い) 巡査

(ろ) 部長

(は) 裁判官



(に) 將官

債金と日清銀行

帝王

華族

百姓

職工

下女

キリスト信者の不幸と小話

佛敎

マホメット

教育

政府

出稼

洋行

軍人

國會政治

(い) 代議士と對話

(ろ) 書記官と對話

キリスト

釋迦

不孝を止め給へ

世界は滅亡

金

名譽



櫻の花

柿の花

梅の花

藤の花

ワシントン

シーザー

アントニ

國民の種類

箱馬車

料理の流行

朝鮮のマンロー主義

結論

### 戸主と女權

女學生 男女同權でなければなりません

僕 夫れは間違でせう

女學生 間違ひではありませんエデンの夫婦の談を知つて居ますか

僕 そんな事は目下必要がありません

女學生 少し眞面目に考へて貰ひませう

僕 眞面目に考へると益々女は男に絶對的服従の義務あり、調法に出

來て居るチカノミカルツールといふ外はないです。

女學生 費下は此頃に出版せられた歐米名士の家庭てふ書物を讀み

ましたか



僕 ソンナものを讀まないでも可いです

女學生 間違つた東洋思想ですから困ります

僕 些とも困らないです

女學生 ソレでは貴下は歴史を壊すのです、勢くとも世界十二億人の信仰に反對するので、現世界の組織に反逆を企つるのでせう

僕 僕はコンナに火の手を大きくする積りでないのに

女學生 イーエ妾等の生命の問題ですから、コレハ二十世紀の一大問題となる程になつても可いです、決して、男子に一步も譲らないです、今迄の如き人形や奴隷の如く扱はるゝことは、止めて貰はんければなりません

僕 女子教育は、理屈を覺ゆる丈です

女學生 克く實地にも長ます

僕 世界の地理は委しく知つて居ても、台所の地理は暗いのでせう、ナ

ンでも斯ういふ讀が坊間に流行るのです、二十萬圓以上の財産家でないといふ今の女學生を妻にすることは出来ないといふことです、爾う

でせう、セキスピヤ、ミルレン、スコットなどの高い理想を歌ひ、トルストイ、キリスト、釋伽、老子などの壯嚴なる教恩に浴しつゝある上に、常

に對外思潮に酌む所も亦尠なくないので、すから、自然二錢の大根を一錢に負けて呉れ、十錢の肴を五錢に下げて呉れといふことはなく

なるでせう、コレですから家は持たせせん

女學生 貴下も矢張り島國的根性ですな、小ボケな了見です、ね、二十世

紀の女子個人的元氣の勃如として起つて來る今時に、二錢の菜根を一錢に値切るなんて、ソンナ所に成功しなくても可い、ソレよりは、大膽に交際社界に飛んで出て、英米佛獨人等の弱點を捕へて、良人



仕事上の助けを仕て遣るのが肝要です

僕 ツレが即ち小身分のものでは

女學生 小身分のものでありませんと、仕事は出来ません、世界の富は

皆貧人の手に咲いた花です。富といふ衣物は、男が表を繕ひ女が裏を

染めるのです

僕 どうも英鎊當る可らずだが困る

女學生 毫も困りません

僕 交際社會てふものは、金が無いと兎角巾が効ない否社交が出来な

い

女學生 ソンナ事があるものですか

僕 あります、東京俱樂部でも、日本俱樂部でも、亦帝國ホテルでも、一回

の會食が五圓位はかゝる殊に其一ヶ月の會費が十圓内外ですもの

其處に入りまする重立たる人の交際費は一ヶ月三千圓に達すといふ

じやありませんか

女學生 ソラそうでせう彼等は東洋の紳交ですもの何も普通の紳士

にはソンナ事の心配は無用です。二三十圓も社交費があつたら澤山

です

僕 其處です、僕等の如き、若い青年紳士は大概百圓内の収入です。ソレ

に三十圓も妻の交際費に引拔れちや堪らないです。且つ其外出にも

衣物も要るのでせう、時間もかゝるのでせう。爾うなると歐洲社會の

家の様にハウスキツパーてふものを雇入れて置ねばならんでせう

女學生 ソレで可いでせう、其代り、妻も亦立派に働くからさ

僕 僕等はもう、自分の妻が其處此處に顔衝出して喋舌つて歩行く

のは嫌ひですから



女學生 夫れは一個人の感情論です、ソナ事を以て全体のタートル  
ライフを打消すことは出来ないです

僕 社會に由るので、社會に由るので、歐米のごとき個人を以て其  
單位として居る所にはソレハ鳩山春子夫人も可いでせう、其小なる  
貴嬢も可いでせう、併し家を以て其單位として居る日本では親族と  
か朋友とか何とか種々妙な事があるのです

女學生 貴下は良心が病んで居ます

僕 ソナ事は勿ろ

女學生 どうも妾は甚だ暗涙を催ふします、此人生のために理想の日

本は容易でないでせうか

僕 急に御失望ですな

女學生 決して失望は仕ません、自己の天職がありますから、夫を果さ

ないで

僕 併し僕はどう考へても男女同權には不感服です

女學生 貴下は甚だ理りませんです

僕 貴嬢は先程アダム、イブのエデンの談をされましたが、夫れは少  
し間違て居ませう、私は其時に生れて居なかつたから知らないが、ミ  
ルトンの書かれたパラダイス、ロストを讀みますと、人間の墮落、即ち  
ち人間が美しい天國に住むことの出来なくなつたのは、アダムの妻  
イブが女の猿智恵から男の分業を申込みて、別居しサタンの悪蛇  
に欺かれて神の禁制した樹の實を喰つたため、其雪の如き姿は見る  
間に汚くなり、且つ邪見の心さへ生じ、良人アダムに會つても更に之  
を詫る事もせなかつた、アダムは涙ながらも、自己の生命とも思ふ妻  
のみ一人墮落するを見るに、恐びないので、亦神の禁制を破りて、樹の



實を喰つて同じに其美しい体を汚したソレカラ二人神の前に出でて其過失を謝してドンナ事でも仕ますから昔の如く美しい体にして天國に住ませ給へと祈ると神がソレハ叶はないが他に於て住む可き土地を與へて遣らうされど此墮落はイープの淺い心から起つたのであるからイープはアダムよりは罪が重いから今後一切アダムのいふことを聞かねばならないと申し渡したとありました。だから人間の原始から男女同権であつたといふことが分る。女學生 ソレハ他の國の原始の事です、且つミルトンは平生女權を抑へやうとした人です。我日本の歴史には天の二柱の神、たかみむすび、かみむすびの兩神といつて共に平等であつたです。僕 日本は世界の一分子で二十世紀の國です。だから世界教から萬事を推論せんければならんです。

女學生 耕也に六七千年も經つて來ました人生ですから女の罪は産子といふ効て十分男と同等に神の白洲に掟つて居るでせう。だから文明國殊に世界で第一の米國などは男女同権ではありません。日本を初め東洋諸國ばかりがソナナ詮らん事をいつて居るのです。僕 どんかに貴嬢が巧みに説かれても一家一世界皆同じ理で説明せられますか。一世界は神が主宰せられます、一國は君主或は大統領が主宰せられます、一家は戸主が主宰せられます、而して此位に上るものは殆んど男です。女學生 大にノイです。英國は女王でせう、露國のカザリン二世、日本の神后皇后、埃國のマリヤラサどうです。これでも男ばかりといふことが出來ますか。僕 少しはソナナ例外はあります、併し家の戸主は大概男子です。幾程



十  
いつでも駄目です事實貴嬢は私よりは脊が低い聲が小さい力が弱  
い姿が柔しい女性は男性の友をするやうに天然が出来て居るので

女學生 ソンナ事はありません  
僕 イヤもうコレデ止めませう

### 玄關番の能狂言

僕 頼もー

玄關番 ドーレ

僕 ヤー君はどうして亦玄關番

玄關番 人間は盧山の八面で其處には底もあれば蓋もある

僕 ヤー氣樂だろ

玄關番 人間は一粒のもので

僕 へーソナチ何か米麥と同一か

玄關番 未だ御正月は遠いよエント遠いよ

僕 ソレはどういふ意味か

玄關番 イヤにしらばツくれるが紳士にゐると大分容子が違ふて來  
るものだ

僕 だって君一粒のものでふ事はどうも分らんぢやないか

玄關番 分らんけりや勝手にせ……

僕 ハア……

玄關番 何を笑うんだ

僕 君は人間は一粒のものといふんじやないかソナなら關係がフヒ  
デレジョンでない平たくいへば個々別々だろソナならば僕が何



といほうが痛痒を感じないが可いではないか然るに勝手にせよな  
ど立腹するやうでは、未だ眞誠に一粒の眞理が分らないのだから  
笑つたのだハア……………

支那番 ソレは亦驚く一粒種といつたところが一人限りで絶對とい  
つた譯じやない、英米露獨佛日と皆一粒の國家を爲して居ても國際  
社會といふ大幕の中に這入つて居るじやないか、人は個々獨立して  
社交せんければならぬ然るに支那番となれば、主人が僕の獨立を承  
認して呉れない、自分と亦漸次に不獨立になるそれで人間は一粒の  
ものであるべきにと悲んだ譯である

僕 ハー大分學者になつた  
支那番 人を馬鹿にして居る  
僕 馬鹿といふことはなかく深い意味がある昔し昔し第一の昔に

支那の人達が鹿を馬と間違つたソレカラ凡べて人の間違を形容し  
て馬鹿といふのである然るに君は今自分を愚にして居るといふ所  
を馬鹿にして居るといつたソレナに馬鹿じや困る

支那番 ハア  
僕 支那番殿 更めて窺いたいが此處の主人は能が上手といふじや  
ないか

支那番 いや早堪つたものじやない  
僕 どうして

支那番 無用の長物の集會場で  
僕 ハー

支那番 能狂言の馬鹿坊  
僕 ソレじや君のごとき豪傑には堪るまい



玄關番 世の中はなか／＼豊かなものだ僕等が社会主義者のいふことを聴くと日本の社会経済は甚だミゼアブルであると思はるゝが此處に来てからはまるで平家の盛時に殿上に生れた心地がする

僕 へー其點があらう

玄關番 一日朝から来て居つて見給へ馬鹿さ可減に呆れるから

僕 どういふ有様だ

玄關番 乃公が少し謳ふて聞せうか

僕 聞きたい

玄關番 聲張り上げて謳う

甲 其處を打すは誰ぞ 乙 コレは主のために野を越へ山を越へ遙々使用するものにて候 甲 春の日和に楽しみらしく御座る

乙 あかく

僕 見事克く出来ました

玄關番 なかく

僕 ハア……………

玄關番 ハア

僕 ドンナ先生方が多い

玄關番 種々な先生方が来る山縣侯も時々は見えるせ渡邊千秋男な

とはなか／＼仕舞が自慢らしい

僕 どうも今は流行するのだ能者にいはすると能は(一)元氣を養ひ(二)

身体を壯健にし(三)姿勢を正しくするといふがそうでせう

玄關番 其點もありませう

僕 國家大事の今日アンナ物が流行しては困りますな

玄關番 彼等はイツも春です其友達も皆春の友達です何にせよ忙し



い世の中に芝居の真似を遣るのですから、ごうしても真面目な考へはなくなるものです。ソレに一番困るのは、立廻番です。下女や車夫などは、夜會が遅くなつても自分の室に寝られますが、立廻番の室には電話が掛つて居るし、且つ出入の客を注意せんければなりません。から實に一日もやすむ譯には行かず、甚だ閉口千萬です。

僕 其代はり可い有物が来るでせう。

立廻番 来るからつて、彼等の心は皆輕薄だ。否、盲目だもの。衣裳とハイカラ顔のみが目に付くんだもの。咄にはならないさ。

僕 手當が可らう。

立廻番 矢張り普通さ。下女と同等車夫よりは以下日本も今少し人権問題が高くなつて、智識の相場が公平になつて貰いたいものだ。君などは、随分覇氣のある男だのに、ナゼもう些と活動しないのだ。

### 交際

(イ) 國際

外交官 外交は面倒なものです。

僕 何の事はないさ。

外交官 貴下の如きものか、遣つて見給へ。乾度失敗するから。

僕 咄、ハイカラ奴。

外交官 我輩を輕蔑するには及ばんじやないか。誰にでも聽いて見給へ。貴下の如き地金、其まゝな男を適當な外交官といふものは、勿ろ。僕 乃公などが一び外交官になつて遣つたら、國威は一夜の中に發揚



すらあ

外交官 なか／＼ 氣相だな

僕 勿論

外交官 でも貴下外交官で成功した人を見給へ皆貴下の如き蠻がら  
的でないから近い談が加藤高明君でも小村壽太郎君でも貴下等と  
は性質の反對するほど違ふて居るじやないか

僕 妙な人間を引張り出したな

外交官 實證を列擧せんと、貴下には分らんから

僕 些とも實證にはならぬのさ

外交官 何故

僕 事實が一切嘘だもの加藤君が何を成功をした英國交際社會でも  
てたといふ評判があるけれどこれは岩崎の金の御影で豪奢なる口

ンドン交際社會に顔出の出来たといふ談しに止るのだ小村君が何  
を成功したか日英同盟が出来たことをいふのかけれどあんな四五  
枚の紙に黒のインキを寫した位いな事で済むものではない

外交官 爾潰しては

僕 いや潰しやせん

外交官 いふことが亂暴なもの

僕 成功といふのはあんな紙やペンの上ではなくて實体の上に何か  
を加へたことだ平たくいへば盜賊的成功である、ピスマークの如き  
ものが眞に外交成功者であるのだ

外交官 あれは舊思想の外交です

僕 一体外交は二の系統があるものだ(一)佛國系これは華奢を旨とし  
互に義式的に交際するもの(二)獨逸系これは豪健を旨とし互に卒直



的に交際するものである此二系は其國家の狀態に由りて適不適のあることなるが四面咆哮の虎狼を打つて新に大に國運を起すものは勿論蠻的の獨乙的を探らねばならぬ

外交官 些しは知て居る

僕 外交を大袈裟にいふ奴が馬鹿さ

外交官 貴下の様でも

僕 乃公あどが外交當局者なら何事も朝飯前さ

外交官 爾でせう其代り皆打壊しです

僕 打壊しでなくて打樹てゝある

外交官 貴下や、星亨君や、頭山滿君などが公使をすれば本國は質位に

置かも知らん

僕 其位で可いのだ公使館の樓上で晝寐斗りやつて居た星亨君は英

傑いす清國公使などは頭山君が宜ろう貴下に一の利益ある教訓を示さうをれば外交も個人交際と同じことで推しの強いことが第一肝要だひ換れば蠻的外交である此前には黄金も阿諛も何の役に立つものじやないビスマークが普國公使としてヴェンに使用して埃國宰相メツテルニヒ公に會ふと公は上衣を脱して襯衣のまゝで何か働かれて居たが其儘傲然としてビスマークに打向つた爾すると其處がビスマークで云ん此暑には堪るまい乃公も上衣を脱ぎやうといひて襯衣一枚で談して歸へられたメツテルニヒ公に襯衣のまゝ打向つたはビスマークの膽力を挫いでやる了見であつたのだ然るにビスマークが同じく乃公も出てたので悉皆芝居にならなかつた外交官には斯ういふ所が必要だ

外交官 一部の理は理です



僕 全部の理だ

外交官 今の外交は佛國風で成る可くゼンツルメンの態度を取るの  
ですから

僕 汝等には人間の種が違つて居るから分らないよ

(ロ) 私 交

僕 行路難山に非らず水に非らず人情翻復の間にありといふがこれ  
も弱者の迷語だ

神經家 私は瘦せました

僕 左様

神經家 手足なんか恁んなに成りました

僕 顔は菜色を帯び骨は全身に突起し手足は細くして線香の如く一  
稜の命脈これもありやなしやなぞ

神經家 世の中は苦るしいからです

僕 へー

神經家 交際ほど六かしいものはありませんどうしたら上手に成る  
でせう

僕 マー性質だな

神經家 人間が正直では不可でせうな

僕 イヤ此交際といふものは意思の合致か要用であるのだ、この方が  
虚偽の意思を表示すれば到底合意が成立せない従つて交際が出来

ないですだから矢張り正直でなくてはならないでせう

神經家 私は随分正直で

僕 そうです何事でも餘り小心でビク／＼して居るやうですな人の  
云爲は塵ほどでも直に氣に懸るでせう



神經家 爾です

僕 交際上手の要件をいひませう(一)横着(二)偽善(三)調子(四)勇氣(五)勉強

これ丈の要素が十分でありましたならば交際は上手に行かせう

が鹽焼く辛き世を御上手に漕ぐにはこれで先づ可いでせう所がこ

れは丸木橋を踏やうな世渡りで險難です

神經家 それならばどうしたら可いでせう

僕 以上の要素の偽善といふ奴の代りに正直を以てして而して敏い

人であつたら可いでせうあゝ貴下は可愛想です甚だ鈍い

御氣の毒ですな

神經家 皆人が爾吊ふので私は瘦せます

僕 道理です

神經家 交際が上手でないで世渡りが出來ないです

僕 どうも仕方がありません

餘程英俊いものでないと正直であるのは不可ません何事でも弱い

ものが一番悪くなるのです勝是官軍負是ですから何でも勇氣を

出して理も非もなく吶喊もて推強くやるのです爾すると貴下でも

世に容れられます爾なると自然交際が上手になります

神經家 ハアナル程

僕 分りました

神經家 少しは始めから分りて居ますけれど思ふやうにはゆきませ

んです

僕 知つて居てもどうしてもしないですか

神經家 どうも仕方がないです

僕 そんなら断念なさい



神経家「ハイ

僕「何か人は天職を有つて居ます貴下は正直ビク／＼で交際が上手にはゆかないそれで多数の人と共に喋々々々世渡りが出来ないのですから何處かの片隅に巢造つて平和に世を渡るといふことになつたら可いでせう

神経家「爾しませう

僕「何か考案がありますか

神経家「私は字が克く書けます筆工でも仕たらと思ひます

僕「それ／＼それに限るでせう

神経家「私はそれで生活が出来ますと世人の前に種々誤解せられて

痛くない腹を探らるゝことはなくなるでせう

僕「それは勿論です鳥や雀が朝夕君を嘲弄する位だ

神経家「エー

僕「イヤ何でもない事さ

### 官吏

(一) 巡査

巡査「コラ／＼途上に放尿するといふことがあるか

僕「へー不可抗力でどうもへー

巡査「貴公は此土地のものでないな

僕「實は遠國から

巡査「何處からだ一通り訊問する

僕「へー

巡査「身分は平民だらう



僕「イ、人です」

巡査「此馬鹿奴人には違くない平民か士族か勿論華族では勿ろうが有態に白状せよ」

僕「人です」

巡査「人せや芬らん」

僕「私の主義はソシアル、コンワラクトですから凡ての法律を認めません、殊に此節のやうな政府は或る小數なるもの、政府ですから私は國民の政府と認めて居ません、今は私は私の理想國に付屬して此地迄訪ふて來ました。」

巡査「エー」

(三) 郡長

僕「些と生きて貰ひませう」

郡長「決して死んでは居ませぬ」

僕「併しソレは生活は仕て居るでせう人並よりは可く仕て居るでせうでも遠國から來ました僕等の眼に映つる郡長様は大概髯の蓬々として身体のでつぶり太つた聲の破鐘のやうな畫にある蕭鬼に似て而して年の頃五十前後位のドツチかといへば人間よりは、案山子といひたい方なんで」

郡長「ソレは失敬です」

僕「失敬ではあゝい」

郡長「私は我地下に貴下のごとき青俊の士が東京で成功して居るのを欣んで居るものですから、ソレナ失敬な事をいはれても官吏侮辱には問せせん  
僕「問度も仕方ないでせう侮辱罪の構成要素たる他人といふことが



此處にないんですもの

郡長「どうも柔しい方が將來の御爲めでせう

僕「實は郡長さん今日は御忠告に來ました

郡長「何を

僕「貴下は自分の行政上に陥缺がないと思つてるでせう屹度そうで

す

郡長「何ですか

僕「何ですものないものだ貴下の治下に幾多の民争があるのでせう漁

業權の争ひ山野入會權の争ひなと澤山あるのです然るに此事は貴

下が鶴の一聲で中裁の出來るのが多ののに貴下は一切措いて馬耳

東風である彼等を裁判上に大喧嘩せしめて自分は平氣で居るこれ

はどうも不親切千萬な行政官ですこれは改めて貰はんければ其人

民は可愛想です貴下の一聲で靜ることが多いのだから  
郡長「へー爾うですか

(ロ) 裁判官

裁判官「何處へか御旅立でしたか

僕「一寸郷國はゆきました

裁判官「私は這度判事を罷めます

僕「ナゼ爾します

裁判官「大に感じました

僕「ドンな事を

裁判官「私は此横濱に十年も居ます爾うして烏帽子直垂といふ古風

な出裝で法廷で威張るのが一番嬉しかつたです然るに先達て八十

三番ビシ商會のフレシー氏の番頭藤山氏を裁判したです所がどう



も氣の毒で且つ胸がドキマギして威張つて訊問が出来なかつたで

僕「何故

裁判官「何故つて大概御推察をイヤせうも金は人の生命に違ひあり  
ません私は同氏に大分負債があります同氏の恩恵で二三の難所を  
遁れて居るのです烏帽子直垂で威張つても其収入は白洲に垂首し  
て居る藤山氏の百分の一にも及ばないことを思ひて急になんだか  
氣が弱くなり且つ之を有罪に宣告したならば、コレから先の金融が  
どうなるかと危みましたから、其日は其處其處に裁判を切上げて辭  
職を仕ました

僕「へー

裁判官「生活です、生活です、此外何にもありません商人にでもなりま

僕「困つた了見中等以下の人民は生活丈でせうが中等以上は直ちに  
國家に繼がねて居るのに官吏社會の空氣も甚だ腐つたんですな

裁判官「へー

(二) 將官

將官「新聞攻撃位は屁の如しです

僕「ソレは瘦我慢でせう

將官「私はコンミツションを取りますソレを取らない奴は馬鹿です

世界の潮流を知らない奴です

僕「不徳です

將官「不徳ではないです、外國造船所でコンミツションを取るとは殆  
んどスペシアルインタートナショナルロードといふ位です、ヨシ新聞が攻撃



しても彼等から揚足を取つて抛ばらるゝやうな無慢は仕ないです

僕「どうする  
將官「大概イングラバ銀行などに預けて日本には鏝一文も置かないで

僕「ナル程

將官「物質文明の世ですから其位でなければ追付ないです

僕「貴下は馬鹿です

將官「失敬な

僕「貴下は未だ一擧兩得といふことを知らないです英雄は法律以上

制裁以上といふにせよ矢張爲すべきことはドン／＼爲すのです

將官「ナル程

僕「禍いは下からてふ格言は永劫恐る可き羽根を擴げて飛んで居る

のです

將官「ナル程

僕「貴下が一人二人三人五人と悪口せらるゝと悪魔が其中に生れて

終には仕留率ぬやふな大災となるものだ

將官「口説上手だな

僕「だから此處僕に金の二万も貸し給へ今の區々たる悪口を除いて

即ち陸海軍の上に紫雲霧をたる春光を開いて君等が榮耀榮華に日

本の樓といはるゝ位に仕て遣るから

將官「爾う甘くはゆくまい

僕「屹度ゆく

將官「そうかも知れん

僕「何今の新聞記者なんか一山十圓位だもの



### 借金と日清銀行

僕「どうも困るでせう、ハイ、そうでせう、災難などに會ちや

學生「一人ですから一人で、ハイ、親類も何もない

僕「そうですか、ソレハ尙更ですか

學生「私でもドンナ天職を有て居るか分りません

僕「そふですともソレニ違ひありません

學生「ハイ、ソレト困るので

僕「そうでせう

學生「先生に、ハイ、少し、ハイ

僕「何ですか、訓へても

學生「イヤ、實は、ハイ

僕「ソ、ソナラ、何か文章でも書いてくれといふのですか

學生「イヤ、ソ、ソナ事ではない

僕「ハイ

學生「先生、實に早恐入た、頼條ですが、ハイ、どうか御金を貸して下さい

僕「ソ、ソノ事なら、私の方には、今、少しく待つて貰ひたい、實は、這度、日英同

盟の結果、日清銀行が出来るので、此間も支那の才子、李經芳君が遣つ

て来て、日清の資本では、大仕掛の事が出来、いから、米國を仲間に加

へやうじやないか、といふ事になつて居る、夫れが出来ると、我輩も太

した株主になれる、年來の貧乏、皺がソレで、伸び、爾うな心地がするの

さ

此時、立關に、來客があつて

執達吏「御免なさい



僕「御還入なさい

執達吏「最早期日も経過しましたから今日は財産差押に來ました

僕「へーこれは大變

學生「此間の本に恁んな事が書いてあつたけ借金に永久の首枷であ

る一旦借金したものは一代頭か上らぬとナル程夫に違ひない

僕「そうです

執達吏「サードシドシ遣ります

學生「サヨウナラ

僕「困つたな

### 帝王

式部官「同じ人間に相違はありませぬ

僕「へー

式部官「君は妙な顔付して居るが

僕「同じ人間に相違ありませんか

式部官「そうです

僕「ソレでも帝王といふものは竹の園生とか九五の御位を踏せ給ふ

とか九重雲深しとかいつて昔はなか／＼御玉体を拜んでも勿体な

いもの目が潰れたものだ日月を眺めても眼は潰れないのに帝王は

ソレ以上ですからコレハ日月以上の光輝を放ち給ふ玉体に相違あ

りませぬ

式部官「尤も大陸上には恁んな格言があるです帝王は古い電燈で

ある或は又尤も大なる已得権者であるなといふのです

僕「ナル程



式部官「ゴ、同じ人間でも帝王に生れた御方は眞誠に十全です仕合

僕「サー其位が

式部官「何です

僕「大疑問があるのです

式部官「ドンナ所に

僕「帝王も同じ人間とすれば時々深更夜行位なさつた方が可いで

せう

式部官「ソレハ神聖なる玉体を汚すのです

僕「ソナナラ人形です

式部官「たつて君の御所ものは餘り亂暴じや

僕「決してそうではありません

式部官「イヤ甚い」

僕「あ、私は誤解して居ました」

式部官「爾うなければならぬ」

僕「帝王は理屈の外だ帝王は雲の上人といふことでなくなる矢張普

通人と同一になる爾すると威嚴がなくなる人民が勿体なく思はな

くなる」

式部官「困つた事ですな」

僕「ううです」

式部官「ソレニ違ありません」

僕「イヤもう人間よりは犬の方が幸福でせう。人間の幸福は反つて下

等の方に多いマー考へて見給へ、御互よりは車夫馬丁の方が面白い

人事に會つて居るから」



式部官「そうです」

僕「文明開化になるよりは野獸社會の方が遙か幸福でせう第一位し

くないだけでもどうで喰つて衣て死ぬる人ですな」

式部官「サトどうですか」

僕「ハア……………」

式部官「ハア……………」

### 華族

家扶「御上に申上げて見やう」

僕「何御上」

家扶「御上とは御前の事です」

僕「それは不可」

家扶「失敬千萬」

僕「何が失敬なものか其許の方が大に失敬だ」

家扶「阿房」

僕「一体元來御上といふものはキリスト教には神の外はない國民と

いふものからいへば帝王を指すのだ夫れであるのに一個の華族位

を御上なんて呆れら」

家扶「へー」

僕「併し人はソレ／＼境遇に由て其上があるもので華族の家扶とし

ては其旦那を御上といふのは至當であろう」

家扶「今のものは恩を知らない一合でも二合でも殿の知行を受けた

もの末が御上といふことを悪口するつて不都合千萬」

僕「決して不都合でない」



家扶「阿房な」

僕「華族なんか困つたものた國憲だ國の喰潰虫だ」

家扶「怪からん」

僕「喰潰虫でなくてなんとするや生活といふことを知らないから、公共のためにする觀念がない貧人を見て恩ひ遣りがない其癖威張ること丈は克く知つて居る御天狗で一克で我儘で華奢で横着で助平でイヤ早堪つたものじやない」

家扶「勿体なくも御身分があるものを」

僕「何の御身分だい、自分が英俊いのではない先祖の滑汗に咲いて居る花だ尤とも其人の力で新華族となつた奴は別としてさ」

家扶「御家の御血統を知らないから困る」

僕「血統あんが大概分つてら」

家扶「何だい」

僕「タウインに言はすると猿さ」

家扶「馬鹿いへ」

僕「乃公の學理でいふと男女合一會社さ」

家扶「どうも今の學問は不可堯舜の教にも忠孝といふことが大本じや君の先々君は随分忠義の御仁であつたのだが其孫たる君はソंना了見になるとは驚きました」

僕「イヤ家扶君驚く可らずだ抑も世界何の處か華族なからん英國でも佛國でも皆華族があるので、彼等の方でも矢張り世襲で且つアツバ、ハウスに入るので、日本のやうに唐威張はせぬ又人民がさせない、華族といふ名義はあるが實權は寧ろないといつて可い」  
家扶「へーアツバ、何んだか小供にいふやうじやな」



僕「ハア」

家扶「ソレでは君は華族は悪いといふのか」

僕「何も悪どはいはない」

家扶「でも悪口するじやないか」

僕「當然さ」

家扶「ヘー」

僕「悪口いはない位にしてもアレ丈あるんだ」

家扶「どんなに悪口をいふのか」

僕「第一は奥方や娘達の奢侈衣物でも何程拵へるか分らん向がある

第二は息子様の鳥狩俱樂部遊び第三は主人達の色狂ひ第四は奥女

中の舊思想

家扶「ナル程」

僕「ナル程じやないあれを止めて貰ひたい」

家扶「そんな事は棚に抛り上げてヘイサヨウと御扇上るので此方現

地位にある所以だ」

僕「ナル程ハア」

### 百性

百性「餘りません」

僕「馬が毎日友するだろう」

百性「ヘー夫れは仕ます」

僕「ソンナラ可いじやないか」

百性「ソンナ事が旦那」

僕「イヤなか／＼見上げたものだ今世君達程豪傑はないさ」



百性「旦那冗談ばかり」

僕「人間よりは馬の方が太い小が大を率ゐて居るのは全つたく君達ばかりだ其上馬と君と連立ちて行く野邊は千草の装ひで一面青地の絹を敷いてあり其傍には天女の小琴を奏づるやうな聲で谷の小川が涇々と流れて二人連の姿が明白天心に寫るだろう」

百性「へー」

僕「ソレハ分るまいが其處がなか／＼」

百性「ナル程爾いふ事もあります此間も畑に立て居ると天子様の傍に居るとかいふ寫眞師が來まして此邊の景色を撮影しました多分私共の姿も其中に撮影つたでせうよ」

僕「噫汝はニエートンの犬」

百性「へーソんな犬は此界限には一匹も居ません皆毛深い赤犬です」

「一匹百兩なんてな居ません大概口ハで遣り取りします」

僕「イヤ困る」

百性「へー旦那様は御金の就る樹でせう」

僕「汝などは大金持だらう」

百性「糞桶擔きは詰りません」

僕「此邊に居て楽しいと思ふことはないが」

百性「ありませんあマー暑の強い夏の夕方や霜の厳しい冬の旦那などは可い心地がします夫れも旦那慾です暑いと米が克く出来るし寒いと麥が克く出来るからです」

僕「なか／＼慾だナ」

百性「へー慾です」

僕「イヤ何處でも」



百性「此世の中は慾の世界でせう、芝居は昔から素人の學問といふんです。毒藥を飲ましたり、不意打をするなんて皆慾で大概色と酒との慾ですな。」

僕「ナル程これも亦一理。」

百性「旦那戦争がありますか。」

僕「マー分らないよ。」

百性「旦那私ももう醒醒せぬ積りです。大奮發します。」

僕「へー何を。」

百性「旦那方が支那朝鮮西亞魯を占領しますれば私は一家親族百人程引連れて其土地に行つて百性村の長になります。」

僕「可い丁見だ。汝のやうな百性が澤山あると可い。」

### 職 工

社會主義者「資本家と職工との調和は、どうしても駄目です。宇宙の凡てが引力の強いものに引付けられるごとく職工でも何でも今は皆資本家から可いやうにせらるゝのです。」

僕「這度出來た工場法案は如何です。」

社會主義者「爾うです。アレハマー可なりに出來て居ます。時間の所も甘くいつてあります。殊に尤とも感心すべきことは、工場保險の章でせう。」

僕「ハアー爾うですか。」

社會主義者「職工ばかりじやありません、一切獨占を排して人は皆職工といふことに任せんと社會の不公平は克く治りません。」



僕「ナール程

社會主義者「マー可愛想じやありませんか現今職工の狀態などは機關破裂で手足を折つて一生不具になつても二ヶ月位の給料を拂つて追出すんですもの又其日常の食物といつたら随分甚いのです

僕「困りますな

社會主義者「三菱造船所とか古河鑛山などは克く行届いて立派な規則書も出来ては居ますが中に這入るとなかく苛酷じやそうです

僕「困りますな

社會主義者「どうもソナにあつても彼等は矢張り宵越金は使はないなんて馬鹿な丁見ですから貯金は使しませんマー貯金でも仕て、イザ鎌倉てふ曉には同盟罷工を打續けると可いのです

僕「困りますな

社會主義者「故に我輩は克く演説を遣つて其智識を吹込むのです然るに彼等は些とも聞きには來ない殆んど聽衆全体は學生です演説を芝居同様に思つて居る學生です

僕「御自分の方が餘程社會主義實行を急ぐのでせう

社會主義者「エー何です

僕「イヤ君達自からの方が

社會主義者「何だい失敬な

僕「失敬では勿ろう社會主義をいふのは多くは其境遇にあるからである。サンシモンでもカールマックスでも皆爾うだ殊にカールマックスの經歷と矢野龍溪の經歷などは甚だ克く似て居る爾うだ

社會主義者「吾輩は血と涙を以て

僕「衣食住に困るからどうで一生懸命さ



社會主義者「君は随分頑冥不靈だ

僕「そうかも知れん

社會主義者「貴公などは駄目だ

僕「我輩も亦社會主義の一人だが法律を以て富と權とを一切國有と

して人は皆職工といふことにはどうも不賛成だがソナにせなく

てもさ開闢以來富と權とは必らず其人に拵つては居ない空氣のや

うに漂々として流れて居るのだから此方にそれを占領する丈の力

があれば直様實行せらるゝ近い談が星亨が出來て其力を振へば星

丈の富と權とが湧くじやないか

社會主義者「ヤーそれも爾うだそんなら我輩の運動は悪いといふの

か

僕「悪くは勿ろう

社會主義者「どうしたら可ろう

僕「どうでもさつしやい

社會主義者「甚だ不得要領だな

僕「サー社會主義者は社會主義でドシドシ遣つたら可ろう人間の頭

に湧く事には何かが宿るでせう

社會主義者「ハイ感服しました

### 車 夫

車夫「此節は可い御勤する旦那でも大概テク〜ですから

僕「乗人は少ないか

車夫「少ないですども困つたものです

僕「乃公の借りも其内



車夫「ようがんす旦那の事なら生命をかけて辛抱します下拙などは  
イツカ足を洗いたいと思つてるのです旦那も其永いことはありま  
すまい其内には出世するでせう

僕「人は御互に思ひ遣り情を結び合ふて始めて世の中が立つのだ

車夫「旦那方のやうな人は分つて居るがどうも大金持でも亦可い官  
吏などでも分らん手合が多いので癪に問はら

僕「併し世の中に汝などは英傑い組だ

車夫「へー

僕「ハア……………」

車夫「旦那氣味悪い笑をなさいましたな

僕「ウン笑つたでもない

車夫「變です

僕「世の中に汝達は豪傑じや大仁者じやといふのさ

車夫「冗談ゆつちや不可ません

僕「冗談じやない堂々たる男子が而も僕なぞよりは立派な男前を以  
て敢て市井を憚るなく人の足になるイヤ人を引いて牛馬の真似す  
るなんてなか／＼餘程思ひ切つた了見であければ遣れんせ

車夫「へーナル程

### 下女

顔の赤い下女「此處の井戸端はホントに使ひ悪くして仕方がないわ

顔の青い下女「爾うさね

僕「井戸端會議が始つたか

顔の赤い下女「ホントに口悪旦那だわ



顔の青い下女「旦那は人を悪口するのが御商買ですか

僕「どうか分らないが汝達の方の飼犬は壯健か

顔の赤い下女「飼犬は一匹か居ません

顔の青い下女「私の方にも

僕「頭の黒い犬が五六匹宛居るじやないか

顔の赤い下女「マー驚いた旦那様方を

顔の青い下女「マー甚い

僕「ソナナに驚かないでも可ろう

顔の赤い下女「何だ自分は立派な旦那でなくつて始終アイスクリー

ムに攻められて着屋乳屋牛屋なんどの御拂ひも出来ない癖にソ

臀の皮が呆れら

顔の青い下女「家賃だつて三月も溜つて追立を喰つて居る癖にホ

ト二人てものは御天狗になり易いもんだわ」

僕「ソナナ理屈をいふものじやない」

顔の赤い下女「妾のいふことはホントだわ」

顔の青い下女「クサス人じやないわ」

僕「だけごマー克く聞き王へ汝達の主人方は衣たり喰たり寐たりす

る外何をするか」

顔の赤い下女「旦那様は本も讀みます御手紙も書きます而して毎日

役所に御勤めです奥様は毎日夜を生御料理も遊ばし手仕事も御上

手だのよ

顔の青い下女「そうですとも汝様の方の御二方様はホントに可い御

夫婦ねそうして御子様も立派よ妾の方もマー普通から見ても可い

のね



僕「喰たり衣たりする斗りの動物は生活する器械なんだ犬も生活する器械だから之を御同役と見ても差問へはないのだ

顔の赤い下女「ホント悪らしい

顔の青い下女「仕方がない且那よ

僕「汝共はアンナ飼犬の前に出るを難有く思つて居るだらうアンナ

家に奉公するのを名譽と心得てるだらう

顔の赤い下女「ソレハ當然だ誰だつて始終臺所から借金鬼が怒鳴込

家に奉公したくはないわ

顔の青い下女「そうですともそうですとも大にそうです

僕「ハア……………」

顔の赤い下女「ハア……………でもないよ

僕「イヤ時に汝達の目的は如何

顔の青い下女「妾なんどは下女はしても中等の教育があるんです自

分の家に居るときは大概御稽古したんだだから手紙なんか書くと

御嬢様が汝は上手だつ妾なんどは叫はないといはるゝ位よ

顔の赤い下女「妾達つて大概のものは讀めるのよ下女をするからつ

て矢張り日本國民だもの馬鹿にしちや困るわ

僕「井戸端會議を止めたら可ろう

顔の赤い下女「二三人を集れば自然吐さなくちや面白くないもの

顔の青い下女「ホントにそうだわ

僕「乃公が可い事を教えて遣る人の中に三ツの段取がある一つは主

義といふもので吐しする奴二つは事柄といふものを吐しする奴三

つは人の噂といふものを吐しする奴汝達は人間の一番下等だから

人の噂斗りをいふものだ



顔の青い下女「口惜しい

僕「ハアマー……………可いよ

日本人はね皆井戸端組だ

### キリスト信者の不幸と小語

信者「不幸ですごうも何です御金があつても不幸です

僕「誰です

信者「誰ッて外の人の事でもないんです

僕「誰の事です

信者「實は貴下も御存知の上原とみ子様が身の上です御智様があんな

なにあるんですから洵に御氣の毒ですホント困つたものです

僕「併し御智様は立派じやありませんか

信者「些ども立派じやありません不幸です

僕「ソリヤ分らんあの智様は學問もある地位もあり且つ將來がなか

く有望の人であるのに

信者「そうですかそれでも貴下教會には些ども顔を出さない奥様に

も親切がなくつて始終紅葉館などに遊ぶといふ評判ですもの

僕「遊ぶことは普通誰でも遣ります

信者「朝夕神に祈りもしないさうです

僕「貴女方の不幸といふ言葉はソナナ所から湧くのですか、さうも困

ります

信者「へー

僕「へーじやありません不幸とはそんな事ではないです

信者「ドンナ事を



僕「聲様が一人前の紳士であつて而して世間並に遊ぶ位くらゐの事は寧ろ仕合せです。然るに之を不幸といふのは驚きます。とみ子様は出るに車あり入るには下女げにょに迎へられ四時の娛たのしみ寒暄かんげんの交まじはり何不足なにかないじやありませんか

信者「それでも伊賀様などの様に

僕「エー驚いた伊賀様は農商務省の屬吏そくりで月給二十圓にせんねんの小官吏しょうくわんりではありませんがとみ子様の聲様は百五十圓も取るのでせうそれは比較ひかくになりますものか

信者「ソレでも皆様が伊賀様の方を仕合といひます

僕「ソレじや日曜日毎に教會に顔を出し而して男が柔しくつて皆様と克く交際するからでせう  
信者「どうです

僕「其處は些と考へを殊にせんければならんです。一体とみ子様の聲様などは有爲の若手です。コレカラ大臣にでもなる了見れうけんでせう。だから貴女方と交際し教會に顔を出す暇がないんです。然るに之を惡口するのは甚だ要領を得ないです。キリスト信者の傑たけです

### 佛 教

僕「宗教改革が、必要です。第一本願寺を打止めて貰もらいませう

僧「不都合な事をいふものじやない

僕「いつても可い

僧「日本のビースは、本願寺のものだ。北國西南にかけて社會組織の堅固たるのは本願寺の力である

僕「馬鹿な事



僧「其証據には彼の地に錫を立て、見給へ本願寺僧といつたら天降つた人の様に尊敬するから従つて、何事も利目があります

僕「それで悪い事が出来るのでせう

僧「決してソナナ事をそれは下々の味僧ならば兎も角も

僕「イヤ大言吐くな。貴下等も亦其一人である

僧「馬鹿いへ

僕「己に馬鹿といふのが五戒を破つてら叩いても磨つても一分の減

りもせない法の海に、生命を慥らへて居て天上天下唯我獨尊と高く

吹き慣れて居る人とも思はれないほどに膽玉が豆かアハ……………

僧「乃公だつて矢張り人間だから

僕「人間を濟度する奴が僧だ

僧「僧てふ定義を知つて居るか

僕「知つてる

僧「いつて見給へ

僕「アハ……………

僧「何だ

僕「アム……………

僧「馬鹿々々しい

僕「山色皆是清淨の身、溪水長廣舌喝

僧「へー下等な禪

僕「コラ僧は一笑して蒼天落ち二笑して地軸砕け、三笑して乾坤一抛

別に新天地を開く底のものである。之を平らたくいへば、僧とは桑門

の謂いである、世塵以外佛の化身である

僧「ナル程



僕 「ナル程じや困る

僧 「御尤どもの點もありません

僕 「本願寺を始め彼等今日何を

僧 「布施を仕ます、施餓鬼を仕ます、而して説教を仕ます、善男善女の迷

ひを説きます

僕 「赤嘘

僧 「嘘ではありません

僕 「ノノノ大ノノです

僧 「どうも君は頑迷不靈だ

僕 「田舎の人々が本願寺其他凡べて寺院の味僧方を勿体なく思ふのは皆老人達斗りです、彼等は死後の榮へ即ち冥土のためである、蓮華國の空想に驅らるゝがためである、少しも現世の安心立命、殊に修身

齊家の爲めは思つては居ない、試に見よ、寺參の人はいひ換れば、寺に忠實なる人は死木を以て往復する、已に墳墓の戸口に立つて居る人、斗りである、而して全國の僧は殆んど之を奨励する、外何にも仕ない

信者 「へー

僕 「貴女方の不幸といふことは間違つた事に使います

信者 「教會では不評判ですから

僕 「どうも、不可ませぬ、教會は何事も解釋が狭くつて困ります

信者 「へー

僕 「教會で尤も悪いのは人の噂です、信者たるものは昔の聖人のやうに、苟も思邪しまであつては不可です、然るに教會の人は教會の人々の兄弟姉妹です、他の人に對しては要らざる事に容吻して、且つ悪口するので、些とも井戸端組の下女と違つて居ないです



信者「ソツナ事は少ないです

僕「決して尠くなくないです

信者「へーそうですか

僕「教會は、教會の教會ではないのです、神の教會ですだから成る可く

其中に他人をも引込んで之が變化を計らんければならぬのである

然るに今日の教會は益々狭く其人員を限るのである、近比キリスト

教の勢力あるは教會の方ではない、幾多の文士が多くキリスト教の

主義を以て種々の議論を吐くからであるのです

信者「へーそうでせう、實は堀川様などの熱心で

僕「彼等の熱心の下に集るものは、皆青年男女だこんな人達の信仰は

二月の天氣だ固定したものではない

信者「へーそうですか

僕「そゝですとも

信者「教會には教會の規則がありますからどうしても可いのです

僕「教會の規則は、往々妙な事があるので、酒や煙草を八釜敷いふの

です人は皆牧師では勿ろうに且つクリストの人はパンのみにて生

るものに非ずといつた半面は靈のみにても亦生られぬといつたの

であります

信者「へー

僕「貴女方には分らんてせう

信者「分ります

僕「兎に角キリスト教がホント日本を救ふといふ段になるには、今少

し可い人物が牧師の地位に坐らんければ駄目です

信者「そんなら貴下は如何せうといふのですか



僕「改革々々

僧「どのやうにするのですか

僕「佛教經典の講義を今少し現世的にするのた否楽しいことにする

のである、愛するとか欲しいとかいふやうな執着があつてはあらん

といふやうな寂しい教義を捨てるのであります

僧「それがなか〜

僕「六かしかろう

僧「六かしいです永い間の習慣で

僕「教義が空にして空ならず故に大悲大慈であるといふのだが其處

迄は悟とれんからな

僧「どうも困るです

僕「田舎の人で恁んなことをいつたものがあつた。南無阿彌陀佛じや

詮らない死ぬること斗りをいふのだから。夫よりは南無妙法蓮華經

が可いと同じ佛教の題目であるが此言草の中でも人情味香臭いこ

とを嫌ふのが分る。どうも佛教教は何とか改良が出来ねば困る」

僧「併し哲理は立派です」

僕「哲理は立派だ

僧「欠點がありません

僕「ソナ事はない

僧「キリスト教の方では一切救はるゝといひますが、佛教では縁無き

衆庶は度し難しといひて居るのです。どうもこれは、この方が余程可

いと思ふ。假令へば悪人が大洪水に流される、此時全たく悔の改めて

善人となつても已に海に出されて魚腹に葬らるゝときは折角の悔

改めも誰れも知るものはない。縁ないものはホント救はれません



僕「ノー、それは間違ひで、其悔改めた人は假令社會には出づる事が出来なかつても其良心に立返つた即ち非人から人間に立返つた丈で即ち救はれて居るので、社會は知らんでも天地は知つて居る従つて天命といふことに安心して眠つたに違ない、今悔改めをば今救はるゝ、且に道を知れば夕べに死すとも可なりといつた孔子の言は稍庶幾いです

僧「貴下は曲解だ

僕「ノー

僧「兎に角哲理はあります

僕「然り彼は宗教ではない、一個の哲學家だ

マホメツト

アラビヤ人「あらびやには水がありませんから困ります、幸福なるあらびやといはるゝ、印度洋に面した所でさい林は薄い砂は多いので

僕「そうでせう

アラビヤ人「貴國の如き天然に富んだ國はないです

僕「そうが知れませんが

アラビヤ人「美しいです

僕「併し僕はあらびやのマホメツトに感服します、紙と劍で世界を征服しかけたのは英傑いす、天國を劍光影裡に打樹てかけたのは古往今來彼一人です。

アラビヤ人「どうも彼は豪傑でした

僕「そうですとも



アラビヤ人「併し昔の事を繰り返しても仕方がないでせう  
僕「そうですな

アラビヤ人「貴下はごうです唯一神の下五大洲を一統する大望を企  
て、は其時は私アラビヤの半數を率ゐて即ちマホメットとヤトレ  
ジト人の如くあるです

僕「それは出来ずまい

アラビヤ人「何故

僕「何故つて今の世界の奴は皆生活宗の信者ですから第一に要用な  
ものは黄金です然るに僕は不幸です不幸です嗚呼僕には何故カデ  
イジャの様なワイフが出来ないか知らん爾うなると僕は第二のマ  
ホメットで同じ豫言を以て五大洲征服の道に上ぼるけれど  
アラビヤ人「イヤ貴下の如き大人物は屹度成功します黄金などは決

して心配無用です彼は貴下アラスカの砂ですもの日本には佐渡の  
土といふでせう若し貴下がソンナに黄金が惜いやうですならあら  
びや一圓及びシリヤ、メシヤ、メソポタミヤ即ち古代のネブガトネツ  
ーバピロン古帝國を再建すると吹聴し給へ爾うすると屹度天下大  
半の人民は其歴史的追懐の涙の紐に結ばれて雲霞の如く集まるに  
違ひないから萬一成功が難いといふことになれば英國でも露國で  
も特約して其横領した範圍を賣付且つ自分に受負ひ商人の資格に  
て其監視を仕たら立ろに一二億圓位の黄金は得らるゝとやないか  
僕「分つたイヤ分つた

アラビヤ人「何が

僕「マホメットが一個の商人で宗教を擴めるに着手したのは全く神  
聖などの意味から來たのでなくつて大會社でも組立つる積りで始



めたものと思はるゝ一体君等の方は拜金宗の本尊だからな

アラビヤ人「これは驚いた

僕「驚く勿れ

アラビヤ人「マホメットは克くいつたじやありませんか余は新豫言

者余は新教を布く可き天職を有すこの言葉で彼が大望は拜金宗

から起つたものでないことは分る

僕「併し僕はマホメット以上だから

アラビヤ人「へー

僕「マホメットの様に一夫多妻主義の教義は立てない積りじやし又

アンナ紙を剣とうも感化的征服でなくて殺伐的征服は嫌いである

僕「は大陽である其中天にかゝる時は何人も之に向ひて争ふ能はず

といふものに成る積りであるマホメットなどよりは己に人間の種

が違ふて居る

アラビヤ人「太い事を吐かれたな併し實行が六かしいマホメットに

追付ことは出来すか

僕「ソリヤどうで追付あいな彼は已に九泉地下溶て水となり化して

土となつて居るのだもの

アラビヤ人「どうも分らん人

僕「分るものかアラビヤの冢などに

アラビヤ人「口惜しい

僕「ハア………ソナナラ今少し奮發して人並に否祖先の如く文化な

る國になれ

# 教育家



教諭 「職務が職務ですから忙がしいです

僕 「貴下の友人田村君の會社は出来ましたか

教諭 「へー

僕 「ソナニに驚かないでも可いでせう

教諭 「田村君が會社を仕ますか初めて聞きましたたが教育家たるもの

が爾う隨落しては

僕 「會社の重役になるのでせう

教諭 「ソナ事か

僕 「ソレでも田村君が先日來られての談が面白いです、這度のものは

政府が三十萬圓程奮發したから設備が十全に出来やう、どうも學校

は官立てない思ふやうにいかぬといふことです

教諭 「ソナラ矢張り學校じやありませんか

僕 「そうですが私が私はこの節は口癖に會社と呼びます貴君がたの方

では未だソナ名稱がありませんか

教諭 「少し不真面目の御言葉です

僕 「決して不真面目ではありません實際そうですもの

教諭 「何が

僕 「何かつて爾うじやありませんか學校から出るものは會社から出

る製造品の如く大概一定の相場で賣付らるゝじやありませんか例

令へは三十五人出て來て一人百圓或は五十圓宛の市價で其處此處

に賣付くるのは丁度會社から三十五個の品物が出て來てそれが同

し市價で其處此處に賣付らるゝと同じです學問てふパンを喰ひ衣

物を飾る物品が出て來るのに違いないから私は常に會社々々とい

つて居るのです



教諭 「教育の目的は人を造るのではありません  
僕 「どうするのです

教諭 「どうするつて、貴下之を専門語にていひますと教育は人の有せる天性を人為の方法で克く發達せしむるといふのであります故に人の機能に對して、克く人たる本分を全うするやうに致すのであります。されど人を造るのではありませんが天性の不具を完全し天性の痴鈍なるものを鋭敏にすることは出来ませんが只其出来能ふ限りに於て發達せしむるにあります。此點から申しまして、教育は人を發達せしむる方法で人を造るのではありません

僕 「大分理屈が分るやうじや

教諭 「未だ私は知つて居ます

僕 「ナル程

教諭 「聞かせて上ませう

僕 「承りませう

教諭 「これ迄の教育家は教育の力でどうでもなると思つたです。氏はよりは育ちこの言葉が勢力があつたです。不學者昏この言葉が勢力あつたです。だから苟も教育の力さへ十分にあれば、何でも分ると思つたです。決して其國民の目的も境遇習慣天性などに應じて如何するといふ考へはなかつたです。然るにこの頃教育家の目を醒したものが三ツあるのです。この三ツが漸く我教育界の有望なる光となつて來たのです

- (一) 宗教の力
- (二) 國家の目的
- (三) 教育の主義



(一) 宗教の力は信仰です、人の發達は二方面あるのです。(イ) 信仰ニ智識、信仰は宗教の方です、智識は教育の方です。(二) 國家の目的と境遇、自分の乗つて居る舟がドンナ海洋を渡りつゝあるか、又今後ドンナ所を航するのであるか、これを知らんと舟子たるに適當なる準備が出来ん、この點で教育は常に國家の目的と境遇を知る必要があるので、(三) 教育の主義、教育の主義、これがなか／＼六かしいです、哲學上の觀念によつて言ひますと限りがないので、先づ今日の所では社會主義か國家主義かのドチラかでせう、私は之を分つて二ツに仕たいです、(一) 一人に對する主義、(二) 國に對する主義、この上に教育の主義を立てたいです。

僕 「なか／＼道理は分るそれならば上等我輩は反對意見はないが」

教諭 「感服しましたか」

僕 「感服は些ともせない」

教諭 「なせ」

僕 「口だけであるから、日本人は文字が好きです、議論が好きです、理想を吹く事が好です、併し其主義、其理想を實行することは出来ん」

教諭 「其内には」

僕 「最早日が晩れさうです」

教諭 「ソナに急に思はないで」

僕 「急に思はないでは居られない、君達は皆僕の弟子であるのに、唯議論のみして仕事は上らないから、併し大分理想が可くなつたから、それ丈で少しは満足だ、折角勉強するが可い、其内には學校も會社も、ふ悪口が解けるだらう」

教諭 「そうですとも」

僕 「併し教育行政部が可くない」



教諭 「何故

七十八

僕 「ドンドン新智識の人を以て其局に當るやうに仕ない然るに今日  
は已に妙な箱が出来た筈です

教諭 「どんな箱が

僕 「マーマツチ箱さ

教諭 「へー

僕 「マツチ箱です小さな天地を造つて一人誰れか新思想を吹くどバ  
チパチ鳴り渡つて五月蠅くつて堪へられないからさなから教育家  
の新智識が多く偽善的である(一)人に對する(二)國に對する此二大方  
針で進むものは時として今迄の日本人が喫驚行天する位の事を吐  
くのは當然である

教諭 「御尤です

## 政府

社會黨員 「私は世界の浪人です

僕 「面白い人ですな

社會黨員 「面白くもない困る人だ

僕 「面白いでせう國家といふ箱から飛出して

社會黨員 「併し天地といふ箱に入りましたもの

僕 「大きい丈に氣樂でせう

社會黨員 「それ丈苦勞も多いです

僕 「浪人は面白いと思ふに

社會黨員 「人はホント何處迄でも牢人です

僕 「併し同じ牢人であるなら人の造つた古い牢よりは茫々たる此天

七十九



牢に居る方が可い

社會黨員「大いにそうです

僕「貴下の居つた箱は何といひました

社會黨員「確か獨逸といひました

僕「ハア……彼の國でしたか未だありましたかフレデリン君も其

農夫の喧嘩を造つて有名な水車が

社會黨員「古い宮殿の前にありますか彼一個が普國の花です否世界

の柱です併し天の牢は止を得ないで此豪い老爺も已にベルリンの

森に冷い石塔となつて仕舞つた

僕「貴下は日本が可いですか

社會黨員「私は自分の政府が大嫌ひで其生國支那を飛出してから已

に五六國に歸化して見ましたが何處にいつても矢張り政府のする

事は大嫌ひです故にドンナ天恵に富む土地でも政府のある所は大

嫌ひですから、どうしても満足は仕ません

僕「ソナラ貴下は政府は敵ですか

社會黨員「虫が好ません

僕「何故でせう

社會黨員「深い理由ある譯でもありませんが智識あり神仰ある人類

が人の世話になるといふのが已に間違つて居るです其上最大なる

もの、最大幸福といふ所から公共團體が必要とするにしても何も

政府といふほどの大仕掛な世話人が無くても可いやうに考へらる

、です軍隊行政恁んなものか今日の如く盛んになつて來て國民は

公共の責任の方が自治の責任より重くなるのは困つたものです世

界が申合して國際仲裁事務所を設け其處に或數の軍隊と行政所を



置きて人類の苦情を裁判したら可ろうと思ふ

僕「ナル程近頃政府は一の商會の如きものだから寧ろ之を官吏などの鹿瓜らしいもの、手ざり引離して受負人に受負したら可い説もある平和をいふ人は各國が軍隊を解けば自然苦情は亡くなる爾しおければ政府は不要だといふのである。哲學者の新意見には政府などありて、人民を驅り立て、規則正しい歩行をさせるには一層凡てを打壞して野獸時代とせよといふものがある。議論紛々甚だ喧敷い。がどうも政府に對する解釋は何れも一致して破壊である。

社會黨員「愉快です

僕「併し僕は反対であります

社會黨員「ヨシ世界が一致して國際裁判所が出来ても決して其目的は達せられないです

社會黨員「何故

僕「人は盜賊の心を以て居ます善惡の上に人といふ家は保たるゝのであるからソナナ茫乎とした制裁位で天下大平は得られないです

社會黨員「へー

僕「僕は極端な國家主義です、尤もこれは自分一人の存在する間に限りて然るのです、蓋し僕は自分の主義の下に世界を一統して見やう他の人類を自分の思ふまゝ、干渉して統治して見やうと思ふのです。此目的のものには自分の利益の上に政府が必要です

社會黨員「ソナナラ國家の政府ではないでせう

僕「勿論僕の政府と思つても可し國の政府と思つても可い兎に角自分分は政府といふ武器で自分の主義を實行するのである

社會黨員「大に困りました



僕「何故

社会黨員「困るではありませんか、態々獨逸の果から貴下を杖とも柱とも頼んで来たのに、それで困つたのです

僕「ソナナ……馬鹿な

社会黨員「妙に笑ひますが

僕「百川の注ぐ所は海より外はあいでせう

社会黨員「成程

僕「分りましたか

社会黨員「私は新思想の實行家としては餘り石に上下の筆法ですと

思ひます

僕「そうです

### 出稼

政府の役人「海外に行は悪しくはないが困ります

出稼人「私は出願してから三年もかゝりました

僕「それは政府が不都合千萬である

政府の役人「どうも澤山渡航しますと種々悪いことが起つて面倒で

堪らないです

出稼人「それで私共を遣つて呉れあいのでせうか

僕「政府は世界政策の必要からドン／＼植民を奨励する必要がある

のであるに、ソナナ不都合な事はない。一体日本人に海外繁榮主義の

乏しいのは全く夫等の事情に由るのであるう抑々此植民の方法に

二途がある

(一) 自働的植民

(二) 他働的植民



(一) 自働的植民 　これは英國人等にいふ可き事で國民自らが海外に於て自立自營せんため出稼するのである

(二) 他働的植民 　これは日本人などにいふ可き事である豕であるから牧者が青竹で撻つて始めて海外に踏出すものである

然るに世界的社會ともいはるゝ二十世紀を跨にかけて五大洲を横行すべく期しつゝある日本人及び其政府は(一)は青竹を要する豕なるに(二)は青竹を以て撻つて驅り出すこともせない會々之を希望するものあれば反つて之を抑止するなどは不都合千萬である國家の勢力は事實其國民の植民を根據としての談といふことゝなれば益々植民の必要があるのに政府が此方針を取らざるは實に甚だ遺憾である

政府の役人「御説御尤の次第です

出稼人「御尤の次第であるならば些と出稼を奨勵するが可い

政府の役人「黙止れ元來出稼人なるものは破格者である且つ其目的の卑劣なる驚く可きものである故に政府は常に彼等の爲に耻を蒙るとが多い汝等は只二三年外人に奴隸として使役せられ其給金を持ちて歸國し直ちに遊蕩に遊び散すものゝみではないか

僕「イヤ雙方とも宜しくない

### 洋 行

僕「洋行も悪くはないです

學生「近頃はなかく流行致します

僕「そうです併し多くは亞米利加行で

學生「そうですね

僕「亞米利加に行ものは困つたものだ



學生「なせ

僕「文明といふものも、一本の花木と違ふことはないので、其消長の裡に明ならむを望むものは先づ其根幹葉花凡てを見なければならん。然るに近頃の亞米利加が文明を見るものは甚だ間違つて居ます。彼等は只花木の花即ち文明の華斗りを見て居るのです。これです。から凡てが大に間違つて

學生「ハーションナ事が

僕「もうです。だから僕などは未だ十分に自己の研究の足りないものが海外に飛出すのは不賛成です

學生「ナール程

僕「亞米利加文明の根を知らねばならむです。自由獨立この大なる思想の上に咲いて居る華が今日の文明です。併し憚んな事は昔しのあ

つたのです。戦争後のローマの盛事はどうでした。然れども其根に咲く根が絶ゆると久しくないものです

學生「私も洋行しますが併し亞米利加ではありません

僕「何處です

學生「佛國だ

僕「佛國でも人の國だから克く浮氣にならぬいで勉強せんければ單に見物ではつまらん

### 軍人

少尉「この間結婚したばかりです

僕「軍人はケークといふ新名が出来た

少尉「そうですね。何處から



僕「七十年の戦争后獨逸の軍人は殆んどケーキとなつたです近頃日本が其真似らしい評判があります

少尉「戦勝は可いが平和は毒です

僕「困つた事だ

少尉「近頃の雲行は甚だ壯快でしょう

僕「若し世の中に休善が亡くなつたら人生は冬でせう

少尉「へー

僕「大和民族よ三千年の古い樹の新芽よ結婚が氣になるんぢや、トテ

モ目出度凱戦は出来ない

少尉「大丈夫です

僕「崩立つ愛はなか／＼強い、ホント平和でなかつたら貴下も未だ首

枷手枷の人間にはならなかつたらう、已にペービがあるのでせう。

少尉「ハイ併し未だ胎内に

僕「困る今時のものは

少尉「仕方がありません、どうで踏み切つて屑よく彈丸雨中を飛ぶ積

りです

僕「嘘でせう願くは日露開戦する勿れだ吃度

少尉「私はマ一除外としても他の老人株即ち金紫勳章の年金で富み

榮へて居る佐官以上は十中八九開戦を嫌つて居るのです、克く茲

んな事をいふのです戦争は五十年か百年目に一度あるものだ、近頃

のやうに繼續されて堪るものかと併し若い尉官などは半は嫌ひ半

は勇んで居る向が多いやうです

僕「國家が得意の時代になるとどうでも軍人はケーキになるのです

少尉「そうでもありますまい



僕 「戦は血を流すのです人を屠るのです、残忍酷虐の野獸性に富ねばなかく六かしいです」

少尉 「近比は器械も随分巧妙です、技術も大に進んで来たのです」

僕 「併し軍人其者が皆案山子でせう」

少尉 「貴下は甚だ口が悪い」

僕 「今の世界の豚が旗を立て、居て算盤を動かして居るようなもので

あるからホントに戦争など仕切る奴はない社會主義の人々や宗教

家が非戦論を唱へなくても人間社會に雲の手を伸しつゝある生活

主義といふ經濟上の新思想は漸時戦の神を何處へか追出しさうだ

少尉 「そうなりますと」

僕 「實は結構といふのだらう」

少尉 「決して爾ういふ譯では」

僕 「乃公は神の如き人間であるから決して悪いことはない、開戦といふ曉は家を焼失して、否諸道具などは打壊して、妻子は其里に追ひ返して、單身孤劍奮然として千里の雲に鞭打つ可しだ」

### 國會政治

#### (イ) 代議士と對話

僕 「此節は義務は一ツもあくなつた何でも營業でないものは無い」

代議士 「爾うですとも」

僕 「貴下の店ではどうです」

代議士 「妙な御言葉を」

僕 「へー」



代議士「私は代議士ですよ

僕「ハア、分りました、ソナラ代議士といふ商號を付けて呼ばないと分らないからと入智恵なさつたのですか

代議士「君は今日は如何かしているか

僕「今夕は御飯が八椀肴三人前喰つた丈で、日比好きな酒も未だ飲まない精神は日比よりも確かだが何か違つたやうな事でも口走りまして多少その何事が算盤的の頭腦に面白くないといふやうな事を引起したのでですか

代議士「烟のある所必らず火あり

僕「どうしたんです

代議士「此間であつた議員集會所で貴公の噂が區々で一番入札の多かつた呼名はどうも日本の面白いといふ人間ではない恐くは世界

ありて以來只一人の面白い男であるといふことであつた

僕「ソレハ可くいつた

代議士「へー御機嫌麗はしくなつた

僕「當然さ、世界の人が皆僕を拜むやうに開化すると僕は決して一ツも不平をいはない一ツも悪口を吐かないさ

代議士「へーマーなかく、吹くね

僕「君はどういふ心で演説するか

代議士「僕にはボルグ位は氣取つて居る

僕「へー君でも

代議士「僕の政府攻撃は可いといふじやないか

僕「爾うさ河原乞食の舞臺に上つたのも同様だ

代議士「不都合な事をいふな



僕「いつて可い乃公が此處に暴いて遣ろうか

代議士「何を

僕「未だ何をなごいふてごまかすつもり

代議士「イヤもう君には弱點を押へられて居るからいふまいがどう

も君人は境遇の動物で議會に入るとどうもアノ位の事は仕方ない

よ

僕「だから僕の方で屋といふても仕方がなかるうあ、政治屋だ

代議士「政治は宗教とは違つて居る手段は何でも可い實權を握るが

肝要だ腐敗の節操のといふのは野暮だ未だ來る奈落昆倫際の下迄

も墮落して爾して實力即ち金と位地とを削り取るのである

僕「妙な理屈を上下する

代議士「コレが新思想だ

僕「困つた豚共

(ロ) 書記官と對話

書記官「國會も近比大人にありました

僕「そうです攫み合などはなくなつたです、其代何も亡くなつたよう

です今在ると思はるゝのは此方の神經作用で眞の國會は死ました

書記官「ソレハ哲學的のです

僕「ノーノー實際である

書記官「へー

僕「へーじやありません

書記官「過渡の時代ですから少しは間違つた事もあります

僕「悉く間違つて居ます

書記官「近頃の議場は克く秩序的になつたではないか、大衝突などの



時にも在野黨は二三の首領が出で、立派に質問し政府は當局大臣  
が出で、立派に答辯するじやないか

僕「些とも立派でもないです

書記官「貴下はどう考へるか

僕「克く舌の叶ふ人形が芝居すると外思つて居ません

書記官「尤とも傍聴席から見ましたなら爾うでせう併し地租案の時

などは随分見物でした

僕「何が見物なものか

書記官「でも皆誠實に遣りましたもの

僕「國家ではない自己の上に一致して遣つたものだ我利々々主義の

ために遣つたのだで少しも算盤のやうな點はない

書記官「なる程其邊の欠點もありませう

僕「何か知らんが

代議士「僕の卓見には感服だらう

僕「馬鹿ッ

代議士「ソナナに怒るな友人じやないか

僕「汝は困つた奴になつた

代議士「ソナナ事はない

僕「選挙區に對しては藩閥打破すべしといひ東京では赤毛布組に這

入つて狐鼠々々政府の方に入出して政治商賣を開いて居るイヤ早

爾なつては只一ツのものが足らぬ

代議士「へー何が

僕「此心がない

代議士「良心では悪いといふことを知つて居る



僕「馬鹿奴今此處力を一に集めて三度も吶喊を繼續すると藩閥は屹度打倒さるゝのであるのに詮らんと見イヤ慾が小さい

代議士「他のものが其評議に乗らないもの

僕「嘯いへ自分から評議に乗らないのだらう

代議士「イヤ君には困る

僕「乃公が來年から全國巡回演説を遣るから其時に大に此秘密を暴いて遣る

代議士「イヤソナに云つて呉れ給ふ勿れ實は好んでアンナ馬鹿を遣るものはないが君今の代議士の境遇は憐なものだ二千圓の歳費があつても選舉が二三度も繼續して其都度三四千圓宛運動費を出して居て其以外には収入がないから皆首の回らぬ程苦しいのだから三回の解散を堵して藩閥に肉薄せよなんといふのは大無理だ

僕「議事は同會で開く心ではなくつて首相の應接間政友會の事務所憲政本黨の事務所或は其處此處の待合に開いて其結果を同會に發表するに過ないのだから政黨や又隱謀に加はらない中立議員などは其開會當日何か主張して見やうとしても已に大勢は定つて居て蒞蒞摺に仕てある決議文を回送るゝので奈何ともすることが出来ないのである

書記官「夫は爾でせう

僕「國會がソナにあつても國民は何とも非難はせない

書記官「爾ですな

僕「だから國會などは打止めて仕舞つたが可いですが上下兩院七百の頭顔を重めて二千圓宛の歳費を支給して書記官書記守衛其他多くの役員を使つて而して得る所のものは國政を玩弄にするのである



即ち矢張り非立憲的に政治を爲すのである恁んな馬鹿けた事はな  
いひ換れば目今の如くなつては立憲政治を開いても到底實か上  
らないから一層一思に此政治を打止めて仕舞へといふのだ

書記官「爾しますとどうなりますか

僕「天は必要ある毎に其人を造ります

書記官「併し今じや其人がないじやありませんか

僕「ある此處にある

書記官「誰れです

僕「乃公だ

書記官「へー

僕「へーじやない乃公が一ツ生命を塔して遣つて見せる第二の豊公  
位は遣れる

書記官「なか／＼人はないものです議會も開かれて此處丁度十三年

でせう爾うして星亨君位の男はなかつたです

僕「ウン星は豪傑だ併し余り卒直であつた世渡りが下手だ

書記官「とうです片岡健吉君は伴運兒です

僕「夫に違ない

書記官「桂首相山本海相などは去年は國家の爲めだから一二回の國

會解散は覺悟の上といひ居たのに

僕「何遣れるもんか

書記官「遣れますまいか

僕「桂が五回も解散を引かけて而して我國の對外國是を打樹てたら

即ち思切つて憲法中止を遣る程勇氣のある男であつたらソナに

國會を値なくは仕なかつたらう國論のないやふな國會とは仕なか



つたろう、妥協とか交渉とか困つた人です

書記官「併し圓滿家です

僕「桂首相にしてビスマークを學びたい了見が露程あるならばもう

一ツ調い人間とならんければ駄目だ併しこれは到底駄目だろう

書記官「君は今後どうします

僕「來年から何か遣る僕といふ蕾が彌々花を吐く時が來たら五大州

一面を蓋ふ花となるのであろう爾なれば國會など區々たる小理屈

の争場所は要らない

書記官「大に吹きました

### キリスト

精神家「神の一人子キリストは世界の生命です十字架に付られて我

等十二億を亡ひてより救ふて呉れました

僕「キリストよりも乃公の方が餘程豪俊い

精神家「困つた事をいふ人ですな

僕「眞理です

精神家「そんな眞理はありません

僕「あります

精神家「貴下は家庭に生れて其父母の恩を非認すると同一の破壊論

者である貴下は三位一体を信じませんか

僕「三位にはなりたいと思つたが今ではそんな事で

精神家「ハア………貴下は未だ頭がありません

僕「へー

精神家「そうでせう理解が其人に結び付られないといふ如き場合に



は必らず「頭が無い」といふことが近比流行する一熟語となつて居ます

僕「へー」

精神家「へーではありません

僕「一体近比の人は生意氣で千万空想の犬です證據の擧らないことを言ひ合つて欣ぶのは談話の不經濟です

精神家「それは爾でせう

僕「そんなら貴下も降参し給へ

精神家「凡そ降参に三個あります(一)戰鬥力盡きて白旗を樹つるもの之を交戦主体の降参といひ(二)財力盡きて合併にはあらず其組下に入るもの之を競争者の降参といひ(三)議論の種がなくなつて竟に舌を收め筆を投ずるもの之を學術上の降参といふのです然るに我輩

は此三者に於て一も貴下に降参す可き理由を持つて居ません

僕「此馬鹿者奴

精神家「へー」

僕「キリスト以上といつた事は分らんか

精神家「分りません

僕「乃公は人である人としてのキリストは十字架に付られて憐れむ可き最後を遂げたが乃公はこれから未來が永いどんを事をするかも分らんといふのじやキリストが一人の神の子であるかないかそんな事は乃公の興り知る所に非らずだ

精神家「ソレハ亂暴な論ですキリストは人ではありません神の一人子です

僕「併し人の形をして生れ人の如く談し人の如く食つたことは事實



だから人としてのキリストもあると思ふて可い

精神家「貴下はチャントキリストの事を知つて居るのでせう

僕「そうさ牧師の千人や萬人よりは乃公一人の方が忠實なる信者で

あろう

精神家「へー

精神家「ニチューは不都合の奴です

僕「ドンナ事をいつた

精神家「口から出放大である、キリストは十字架に付けられた人を救ふ

ためならば何も十字架に付られなくて可いのに損な事を仕たもの

だ余り利己でないといふのです

僕「存外浅い學者だ

精神家「そうですとも

僕「ソナラ十九世紀と二十世紀の維りに輝く可き大哲家などには

あと大袈裟過ぎますね

精神家「全くです

僕「乃公などは此處に來ると山は山水は水に押付けていふから一厘

一分も違つたことはいはないこれで大家といはるゝのでせう

精神家「併し貴下に一の願がある

僕「何です

精神家「世の中に恐る可きは誤解でせう

僕「そうです

精神家「ソレあらば人としてのキリストよりは乃公の方が上だなどと

言はなくつて矢張神の一人子キリストを信仰して大言せない方が可

いでせう



僕「ハア……………」

精神家「困りますな

僕「乃公は政治家だもの政治家は乃公即ち精神即ち乃公てふ大了見

でなければ人を指導する譯に行ないさ咄小羊何をいふのだ乃公は

直に天にかけられたる橋梁でありますよ

精神家「へーマア

### 釋迦

僕「釋迦の葬式には雀鳩鳥燕の小鳥に至る迄皆御伴であつたといふ

がソレハ嘘だ實に彼が野邊に死んで肉体が糜爛して居たのを群り

争つて喰つたのだ

僧「一切虚空

僕「狂人奴

僧「乾坤無所立孤筇

僕「へー

僧「少し戦つて見やう

僕「一体戦はなくつても可いでせう

僧「でも戦つて呉れといふ譯であらうから

僕「釋迦の人格是如何

僧「盡未來只一人である天上天下唯我獨尊である

僕「餘り第一等の御天狗だ

僧「勿体なくも釋迦如來の本体は其徳の高きは須彌山よりも高く其

智の深きは九倫の水よりも深いのである十方世界は此一人の涙に

由て養はれて居ます



僕「それでも僕には叶はぬさ

僧「何故

僕「釋迦如來は泣くのだ然るに僕は笑ふのだもの假令へば釋迦の門

弟が

此世の中は一夜旅

空吹く風の音悲し

ありとたのむもをろかなり

草葉のつゆをいのちにて

こんなものだから駄目だ夫は大に覺つて悲哀の外に超脱するが佛

法の本色といふのであろうかなかく其處迄覺る事は六かしいヨ

シ覺つても人は反つて覺るから悲しくなる泣きたくなるのだ

僧「それは釋尊の罪ではない

僕「大に罪さ

僧「ソナナ無茶論が

僕「馬鹿奴

僧「失敬な

僕「ハア一見給へ幾何覺つても感情はあるだろう死は宇宙諸行の常

であるど覺つても死といふことは悲しいこれが人の感情だ

僧「君は破壊論者

僕「釋迦などは狂人さ王の子であつて王宮に羞花の美女が婀娜とし

て左右に持しドンナ樂みでもせらるゝものを山間に逃込んで而し

て樂みのない佛敎を開いたのだソナナ夫で印度が救はれたかど

いふと印度の衰亡今日の如くである佛敎國中日本惟り青春の姿で

あるがこれは宗教に不熱心で感情に燃ゆる國民であるから其同勢



湧涌たる所以であるのだ

僧「ソナ事はない

僕「何處迄非認しても駄目さ

僧「釋迦位の人はない

僕「僕の方が未だ未來がある丈にても上だ其上彼は死んで居る僕が

其塔墓に放尿しても彼は如何ともする事は出来ないんだもの

僧「君のは亂暴だ

僕「君達の空念佛でも四分六分といふのだ大に僕の所論に教はるが

可い

### 奈破翁

軍人「古往今來奈破翁程の英雄はない人間の力とは思はれんどうも

神た軍神だ

僕「ソナ事はない

軍人「君もなか／＼天狗だナ

僕「何天狗じゃないが天の様な男だ

軍人「へー

僕「君には天の様な男だといつても克く分らん節もあろう詮り生神

様とは乃公の事だ

軍人「それでも君は小なる奈破翁にもあれなからう

僕「何コラ失敬な事をいふ勿れ奈破翁は馬鹿だよ大馬鹿だよ君などは奈破翁を裁判することは出来まいが乃公の前に来ると彼も顔色

なした抑も奈破翁は人民の帝王即ちソシアルエントラクといふ

もの理想實現で佛國の皇帝となつたんだ然るに彼は徒らに虚榮を



望んでナポレオン家の皇帝即ち聖上とならんとしたから人民の信用より打壊して仕舞つたんだ

軍人「へーなかく議論家だな

僕「未だあるジョセヒンの如き賢婦を追出してフォストリヤ家の皇女と結婚したのは間違つて居る、コレデ彼奴はフォストリヤ家の後援を利用し自己權勢を得るためドンナ事をするかも知れんと國人に疑はるゝことゝなつたのだ僕一び彼の地位に上ればアンナ馬鹿な事は仕ない

### 不孝を止め給へ

弘道會の役員「どうも今の世は紳士をいふものが一番困るのだ何でも承知して居て不孝をするのだから

僕「へーフン

役員「へーフンつで些と倫理を研究し給へ君の評判も克くあいかから詮り自分の損だせ

僕「へーマー妙な事をいふのだな君の會ではなにか損得から割出して孝行せー孝行せーと説くのかマー驚いた

役員「どうも困りますソナ所で揚足取つちや堪らない

僕「イヤ揚足を取るやうな區々たる乃公ではあいかから安心し給へだが、少し孝不孝の事を説いて聞せう抑も孝とはな這うだ、道樂は仕盡して世間には顔出のならないやうにあつて二親は勿論親類さては國家世界萬國の人迄も心配を煩つて貰ふことをいふのだ、不孝とはな這うだ始終親の膝下に喰付いて三度の食事も親の顔が氣になつて岌々乎として箸を上下する奴だ



役員「ヘーソレハ悉皆孝不孝の評準が違ふて居ます

僕「違ふても苦るしくない、世界的日本の病氣は人の善良といふことだから少し根本から人間を造り換へる必要がある詰り親に世話をかけてアンナ困つた餓鬼はないといはるゝ位でなくつては不可役員「御談になりません

ワット

工業家「ごうも今日の進歩はワットの御蔭です

僕「馬鹿いひ給へ

工業家「へー

僕「驚く勿れ鳥は鍋釜を持たないで氣樂に花間に囀づり又天空に飛んで居る

工業家「へー妙な談をなさいますな

僕「ワットが蒸氣機關を發明して呉れたゝめ世界の距離が近くなつて人類社會の競争が烈しくなつて文明とか開化とかいふものにはなつたが其爲めに忙はしくなつた。ノンキに居られなくなつた

工業家「併しそれで可いんでせう文明社會ですから

僕「コラ無學者人は飲んだり食つたり衣たり寝たりして暮して行けば可いのは何を苦んで復雜なる方法で生活するのだ尤ども生活に不足なきものが社會公共に盡す美風が出来ればソレハ格別だがソナ奴は却つて生活に追はるゝ貧乏人に多い否此奴も亦生活の爲にソナ甲板を掲ぐるのだ

工業家「ヘーナル程



# 世界は滅亡だ

僕「世界の生命も久しくない

博士「ソナナ馬鹿な事はない

僕「君などは博士てふ限られた不自由な人間だソナナ大議論に首を

衝込む餘地はない

博士「不埒千萬な

僕「何か不埒だ

博士「不埒じやありませんか私はこれでも高等官三等で法學博士で

大學教授であるぞ

僕「ハア……………爾言ふのが即ち博士だはの二點を加へた博士だ

博士「君は齊度にならん奴だ

僕「大學者は恁んなものだ博士てふ襟輪をかけられて國家とかいふ

ものゝ飼犬が何が分るもんか

博士「へー

僕「へーじやないよチツト堅固りし給へ國家の役人て得々たる貴公

等は只字が讀める丈だ

博士「ソナナ君の世界滅亡論を開きませう

僕「そんなら談して遣りませう

此時僕庭に降りて、一本の菊花を取りて

僕「此花は何

博士「花です

僕「ハア……………

博士「なんだ失敬な



僕「國家の飼犬には矢張り花は花といふのでせう

博士「ソレは無論です一体この花といふものはボタニーの方でいひますと、なか／＼微妙に出来て居るもので、此處で説明すると長々しく参りますから止めませう

僕「どうも分らんな博士などには趣味がない趣味がない

博士「どうも君も妙だキ印で

僕「花とは何？此疑問は世界滅亡といふ問題のために解くのでせう  
らんなら文明といふことを悟らんければならんだ、ソレテ草木は花が咲いてから其次ぎは落花する其代り又其時節が来れば又花が咲く世界も今は文明といふ花の時代だから、其落花の時最早遠くは勿ろうといふのだ

博士「そんな馬鹿な事はない

僕「決して馬鹿の論じやない、物質的文明は一言にていへばハイカラ文明である、血や涙の如き人世の基礎が亡くなりつゝある文明だ盛者必衰の理を以てすれば立所に現世界の生命も久しくはないことが分つて居るではないか

### 金

守銭奴「金です金です

僕「面白い動物だな

守銭奴「旦那だつて金は悪くはないでせう、ソラ金さへあれば此節はドンナ真似でも出来るんだもの

僕「それでも汝は金を貯ふことは知つて居るか金を使つてドンナ真似でもせんじやないか



守銭奴「旦那其處ですよ金の威光が怒くつて使へません

僕「ナル程其位でなくては

守銭奴「併し旦那金さへあればイツでも仕ようと思へば何でも出来

るのでせうだから夫を思つて一生楽しんで貯めたいものですな

僕「汝は何才だ

守銭奴「未だ若いです漸く五十才ですこれから金もあるからマー極

樂ですな

僕「ハア……………」

守銭奴「旦那何で笑ふのです

僕「乃公は世界に一人といはるゝ鼻學者だぞ

守銭奴「それで旦那どんな事があります

僕「氣の毒だが貴公の生命は聖書の馬鹿洋名をラール、オフゴズベル

といふのだ

守銭奴「一体何といふ譯ですか心配ですから訓へて下さい

僕「宜し聖書の馬鹿といふことは這うだ昔猶太の大金持が私程の仕

合者はないでせうといふと忽ち天に聲ありて汝の命今夜取らるべ

しといはれ其儘打倒ほれて死んだといふことなんだ

守銭奴「へー

### 名譽

僕「名譽なんかどうでも可い

愛國者「それは不可ません人は名譽です

僕「名譽はマサカ生命でも勿ろう

愛國者「へーそんな事は知らない



僕「どんな事を名譽と思ふか

愛國者「去年でしたつけ人が川の中に飛び込んだから私は早速飛込んで救上たら御腹のぼてれん様でしたか警部から褒められやした

僕「そんな事を名譽と思ふか

愛國家「あかゝ未だ思切つた事を遣る積りだ

僕「何事を遣る

愛國者「どうか政府が奮發して呉れて日露開戦と來たら命を的にかけて首の二三個位は打落して國民に褒められて且つ功何級といふ位にはなつて見せる

僕「ナル程

愛國家「英傑了見でせう大和民族はこれしきの意氣がなくつては不可

僕「君は日露開戦に日本が負たらどうする

愛國家「そんな事は大丈夫でありますまい兎に角一功して景氣を打付たい

僕「あゝあゝ

愛國家「君はナゼそんな嘆息をするのだ

僕「コンナ事言つても分るまいが支那問題は最早劍や舌の方では追付ない手や足の方になつて居る滿洲燒餅は氣量が狭まのソレよりはドンドン國人を支那に派つて事業經營と來るが一番確實であるのだ

愛國家「それでは君何にもならない

僕「何にもならないで可い

愛國家「私の友人に男自慢の可い軍人がある其人の言葉に這度日露



開戦になると腕に一本の筋が殖へるだろう夫丈が楽しみだと申し  
て居りますのだ

僕「ハア……………」

### 櫻の花

才人「敷島の色です、大和のナシヨナツヨリです

僕「何が

才人「何がって君十里の堤上水昌の村さ

僕「へい何處が

才人「チト通になり給へ三月通になり給へ雲を曳く墨堤の櫻花敷島  
の大和心を人間は朝日に匂ふ山櫻花だよ

僕「君は狂人ではないか

才人「へい妙に氣が勇まないなね爾う陰雲天に閉じては誠に困る

僕「櫻の花の奴隷とは資格が違ふさ

才人「驚きました

僕「何が驚く

才人「花は櫻よで都人の狂するは殆んど一の遺傳性であるのに

僕「乃公は櫻は嫌い

才人「へい

僕「櫻斗りではない三月が嫌いだ面して推出して行花見の蟻が嫌い  
だ其道筋の淺草觀音が嫌いだ

才人「それは亦如何いふ譯で

僕「知れ切つた事さ

才人「知りませんが



僕「エソツプ物語りの三月の友てふものを知つて居るかそれを知つて居る奴は皆三月が嫌いにならねばならぬ

才人「ナル程

僕「乃公は「ゴツイ」人か好だ一夜盛りのごとも脆いものは嫌いだ死際が立派か潔きかそんな事は問題外として一日一分間でも長命の方が何かて益がある死んで何か出来た事があるか心短かし春の山風あざとほるの櫻花は大嫌いだ

才人「ナル程

僕「上野向島イヤ狂人が百千萬と大騒きを遣つて而して風埃晴天を曇らし且つ浅草観音と来ては堪らない其形容が死人の祭りらしい其處に立つに墳墓の戸口に來たやうな其四邊に日和傘を高く指しかけてくださらぬ弄具店飲食店を見ると丁度亡國の印度に行つた

やうだ浅草文明は其八分は印度式である観自在菩薩など高く吹く勿れ實の處騒がしい墓場だせ

才人「ナル程

僕「己に櫻が嫌いだ三月が嫌いだ観音が嫌いだ併し這中いふ可らざる味があるそれを味い得るものは天上天下乃公一人だ

### 柿の花

女子「詮らん花です妾は彼を愛する所以を知らないのよ

僕 御尤千萬

女子「ホント爾でせう

僕「君あごよりは田舎の土堀女子の方が立派だ

女子「問題が飛びまして



僕「飛ばない君が櫻なら田舎の女子柿の花だ

女子「そんなら妾の方が遙に高等で

僕「ハア……………」

女子「妙に御笑ひ遊ばして

僕「笑つても可いじやないか

女子「あせ

僕「抑も花の太いものは實が少い實の太いものは花が少い造化の愛は平等である一切悉く平等社會君が郁々たる香りは彼の田舎の土堀女子の粒々辛苦の誠實に如かざるや遠ふし

### 梅の花

詩人「梅花冒雪開いて居る高風には、どんな文士でも筆を抛つより外

仕方がありません

僕「そうですそれには違はないです併しこれにも亦一の非難があるで

す

詩人「何ですか

僕「世界的でないです、櫻花爛漫人を酔はしむる底の艶膚でなんでも

可いですが今少し雄大であつて貰いたいです

詩人「詩の方からいひますと申分がありません

僕「それは深く考へない議論です梅は餘り脱俗です菅原道具は立派

な人です併し今少し俗であつたなればアンナ禍にはかゝらなかつ

たろう、梅は甚だ可いです希くは今少し雄大な所があつて貰いたか

つたでせう

詩人「それは悪口いへは何處かに



僕「どんな人でも乃公の前では駄目さ

## 藤の花

掛茶屋主人「恠んな句がありますどうぞでげせう

下るほど人は見上る藤の花

僕「ナル程

掛茶屋主人「藤の花斗りでもないですね

僕「爾う併し乃公も一句遣つて見やう

死ぬるまで首の上らぬ藤の花

掛茶屋主人「甚だ無粹です

僕「乃公には粹も何も無い

掛茶屋主人「それは旦那餘りです

僕「元來乃公は藤の花は嫌いだぐにやくでれくして始終首を垂

れて居るのが大嫌いである

掛茶屋主人「爾いつちや叶はないさ

## ワシントン

米人「十全の人といふはワシントンなどをいふのでせう

僕「そうでせう

米人「智仁勇の三點を兼ねて居るのは彼一人です、眞に彼一人です

僕「一言もありません

米人「米國のフアザーのみでないです、實に世界のフアザーです

僕「併し君達は不孝の子供であります

米人「些ども不孝なことは仕ません、已に今日の米國はワシントン時



代のものと比較するに人口に於ては八千萬人の増加とあり富に於ては殆んど世界一等に抜き領土に於ては、ヒリツピンクエーパ等を併吞して居り主義に於てはマンロー主義より尙一進歩して、インベリアリズムを採つて居るのです。小供の財産は其父祖を凌ぐこと實に幾十倍であります。

僕「立國の主義は何

米人「共和です自治です。いひ換れば自由の二字を生命ともするので

僕「其處が乃ち君等の祖父に不孝なのだ

米人「へし

僕「君も自國の歴史を知らないか

米人「知つて居ます

僕「知つて居るなら大概分りさうなものだ

米人「何が

僕「人といふものは勝手なもので

米人「へし

僕「克く考へて見給へ亞米利加の立國を英本國の壓制に激抗して八年の獨立戦争で漸く其自由を得て國家となつたのだ本國から壓制せられたるときは如何なる事をいつたです。あゝ自由あゝ獨立而して漸く其目的を達するや更に此苦痛を他人民に推付けて自分の昔しを忘れつゝあるじやないか。キューバー、ヒリツピンの干渉は如何じや

米人「ナル程爾うですわ

僕「ワシントンは全く立派だ其死するとき何といふた力めて自治を



屬み以て他國と難を構ふる勿れといつた然るに大統領マンローは  
新大陸の利害は直接に合衆國の利害であるといふことから苟も新  
大陸に關係する事には合衆國の承認を経ずしては他國に一指も染  
めさせしめずと遣つたこれもワシントンの遺訓に稍背いて居るが更  
に甚だしいのはマツキンレーのペリアリズムである

米人「御説御尤です

僕「併し僕は其處でワシントンを非難したいのです

米人「へー

僕「十全の人ではないワシントンが十全の人ならば其いつた事が億  
兆年を更ふるも更に不都合のないことをいはねばならぬのに今日  
は到底ワシントンのいふ通りに世渡りすることは出来ないです  
米人「へー爾らしいです

僕「抑々人間の世渡りはイツモ時代の舞臺の風波に由て其方針を採  
らねばならぬ他人が皆盜賊をするときに自分一人が君子で居ても  
相手が無い否自分は飢渴に苦しむことゝなるのだ商工の方面に火  
の手を擧げて戦闘し強は榮へ弱は枯ること頗ぶる現金的の今日  
にては他國と難を構ふる勿れ「自ら治めて自ら治る」てふ如き消極的  
では追付かない即ち亞米利加の精神を何處迄でも擴張する位の積  
りでなければ不可此點に於てワシントンの云草は少さいのでマツ  
キンレーの正服主義とあつたであらうが併しそれにしても今日の  
米國人は餘り立國の本旨を没却して居る餘り物質的であります今  
少し精神的に即ちワシントンのとなつて遣つたら夫こそ立派なも  
のであらう

米人「感心しました



僕「ヨロシ

百四十

シーザー

僕「貴下等はシーザーを如何に考へますか矢張り反逆人に

伊太利人「イヤ反逆人所か近頃大層シーザーを慕ふのです。ブルタスの馬鹿がなかつたら未だローマの歴史を飾つたじやあろうといふのです

僕「尤も併し彼が帝座に就こう即ち共和政治の敵とならんとしたことは事實でせう

伊太利人「それを彼是いふのは無理です無理な注文です凡そ英雄が出来てから其國家が出来其政府が出来るのは仕方がないです。ナポレオンの野心のことも皆同じことですよ然るに之を及の下に倒はすの

は器量が少いです

僕「汝は太公の臣丈に大分知つて居るから此談は打止めやう

アントニ

伊太利人「そんならアントニの談を仕ませう

僕「僕はセキスピヤに由てものせられたアントニの演説は克く知つて居るが其他は余り知らないさ

伊太利人「アントニはマー才人です

僕「それは爾だ

伊太利人「シーザーの殞られたときシーザー辨護の演説は随分巧妙ですあれは大且と才智と學問となければ出来ません

僕「大に爾です

百四十一



伊太利人「貴下はセキスピヤのものせられたるその演説を知つて居るなら少しいつて聞かせさい

僕「イヤ甚だ僅かです

伊太利人「僅かでも可いのです

僕「そんならいひませう

伊太利人「どうだ

僕「何でも大体をいひますと………洵に諸君ブルタスは愛國家

で善人です併しながら吾等はシーザーを忘れてはならないです

ブルタスは善人です愛國家ですそれに相違ありません併し我等は

ローマの戦勝を思はなければならぬです。ローマの繁榮は何人の由

で打樹てたることを思はざるを得ないので

ブルタスは善人です愛國家です。ローマの輝きは彼の力に俟つこと

が多かつたです併し我等はブルタスよりも尙大なるもの洵に繁榮せるローマの生命を慥へたレーザーを忘るゝことは出来ないです

………マ一恁んな調子であつた

伊太利人「少しく間違つた言ひ方もありませんが大体さうでした

僕「イヤ感心なアントニーです

伊太利人「時に貴國では星亨君が兇刃に殞れたときに誰れもアント

ニーの役を力むるものがなかつたではありませんか君などはなせ遣

らなかつたのです

僕「遣りたいと思つたのですけれども未だ地位がなかつたのです

伊太利人「彼れも亦日本のシーザーでせう

僕「十分シーザーに成れるのでした惜しいことを仕ました

伊太利人「誰れか教唆者があつたのですか



僕「ありましたとも大ありです

伊太利人「誰つ

僕「一人ではありませぬ多くの団体です否クラスの問題です深いことはいはれぬいが日本といふ國にはなかく馬鹿者の多い國ですから

伊太利人「併し濟々たる多士林立する御國に一人のアントニがなかつたのは星君に氣の毒でしたね

僕「そうですそんな所に踏切つて大演説をするやうなボンペンズビラはないです皆撻たれて走るといふ豕群ですほんとに思ひ切つたことを爲る奴はないのです

伊太利人「困るでせう

僕「日本人の無茶苦茶にも呆れるばかりです

### 國民の種類

#### (一) 徒食徒

貴公子「先日の狩は僅か小鳥一匹しか獲なんだ且つ歸途の石黒君邸の晚餐には僕は甚だ失策たよ

僕「貴下等は何事を考へつゝあるか

貴公子「爾う眞面目に問はるゝと些と困るがどうも日本人はリーダーを守らぬいに閉口停車場で何時に會ふといふ約束でも必らず四五分は間違ふんだもの

僕「貴下等は國の殺潰じ一名徒食徒だ嚴重に申渡します

#### (二) 生活宗

會社員「何でも宜い生活これが人の最大目的だもの主義とか理想と



かいふもの生活を離れて外にはないよ詮り金金何と金だ

僕「困つた奴共が出来るぞ

會社員「人の勢力あんかも生活が立派にゆけは自然に出来るもの物

質があればそれに従ふて力も出来る

僕「汝達及び官吏其他國民の大部分は如何にせは可い生活を爲し得るかとあるのだ斯くなつては勢ひ守銭奴が多くなる斗りだ

(三) 空想徒

學究徒「世は科學の進歩で今に月世界と交通の出来るやうになり爾うだ

僕「そんなになるか

學究徒「何人も完全か理想で其中には理想通りに人間が白い雪の如く美しくなつて人種が一ツになるです。極樂國が來るです

僕「汝の如きものは人としては兎も角も國民としては馬鹿だ自分の

富や權の分亂はどうでも可いとして世界人類の遠い先を考へて喜んで居るとは不思議の奴よ

(四) 不平徒

改革者「國は潰ぶれる困つた困つた

僕「君は何故そんな不平か

改革者「大不平ならざるを得ないじやないか、貴族富豪には國家心が欠乏し人民は毫も活氣なく新しく出來つゝある青年は皆生活が出來ればといふ奴のみだもの

僕「大に然り然れども君等に氣の毒だが當分は國會と選舉も起業もなかく思ふやうに行まい

(五) 厭世徒



(い) 華嚴組

風呂敷包の青年 「人生竟勿知已」

僕 「何處に行

風呂敷包の青年 「斯る社會に生れたるは何かの罪業ならん正に華嚴千丈の瀑頭に碎けて宇宙と合して一どならん

(ろ) 頭痛組

枕を片手に床上の一婦人 「どうも貧に堪ゑられないです男の身を碎

いての働き見世は如何に辛きよと思ふて此病

僕 「あゝ困つたな

(六) 空飛徒

(い) 冒険組

好漢 「區々たる島國に巢造つて居ても人間が多いのと上流が義務を

知らないのに肝癢が起つて堪えられないから一思中央亞細亞の真中に飛び込む積り

僕 「行け行け、壯快

(ろ) 株式

首を捻つて小走りの商人 「今日は大當りでありそうなものだ四五萬

も一時に手に入るとウン翌日からウン爾だ面白い否爾うでならな

いと、あゝ死

僕 「一生懸命だのう

(七) ノンキ徒

藝妓 「短じかい一生に齷齪しても詮らないワ

幫漢 「忍び忍んでネ瀬多迄来たがコリヤコリヤ何だい貴下旦那や可

笑しいワ昨日の夜の御茶引後フア……………



一同「ほんと嫌な助どん

學生風「サー君等一びこの改良劍舞を見給へな西刺利亞で駒の首を

立直し何だフア……………

僕「面白い野郎共

藝妓「野郎じやないよ御門が違ひよ怒付さん

(八) 横奪徒

黒頭布「何を恐るゝことがあるか耻づることがあるか世の中に立派の

奴は多く盜賊の子孫或は盜賊した奴だ

僕「困るなそんな打壞し的では日本國家の威嚴がなくなる

黒頭布「そんなら政府や上流が今少し細民に同情を寄せて呉るれば

可い生活のためだごんごん横奪して遣る

僕「こんな奴が日に日に殖へつゝある

(九) 政治徒

(い) 節操も何もあるものか

代議士「權勢を取るのが必要だから節操も何もないよ政府黨の暇面

を蒙つて何どかして一二等の高等官になるのだ不平をいつては損

だよ

僕「フア……………」

(ろ) 民軍の旗色

總務委員「個人的に唐飛の事を遣るからいつでも政府及び其黨類に

馬鹿にせらるゝ民軍連合三回の解散を堵して命掛に闘へば政府は

我等のものとなる。此處迄奮發すると政黨の値段も騰るのであるが

どうも困る今の黨員一同の腰のないのには

僕「御尤もです

(十) サーベル徒



軍人「サーベル徒が一番立派だろう

妻「爾う予近頃戦争の評判があるからでも、あろうが一体軍人は羽振りか可いの、而して勳章年金恩給も大丈夫で生活にも差圖はないから

軍人「日本は武士道の國で軍人は第二の武士だもの

僕「一寸御尋します、貴下は何といふ御方ですか

軍人「拙者は陸軍少佐で佐久間近次といふものです

僕「ハア………爾うですか、戦争でもない、國家はなかく、高い動物を養ふて居ますからね！

(十二) 虚榮徒

若紳士「暫らくでした

僕「何か親でも死まして

若紳士「へー

僕「君は三人曳腕車ではありませんか、余程の急用でせう

若紳士「實は今日暑中見舞に行ます所、それに外交問題もあるもの、ですから

僕「フア………讀ました貴下が外務省の譯官であるから、一は自分を忙しそうに見せて、一は日本國民の多くに恁んを虚榮徒のあるといふ廣告ですか

(十三) 宗教徒

トルストイ信者「天國の建設どうも私共兄弟姉妹はこれを思はねばならないです

僧「私共の方でいひます極樂淨土も矢張り天國と同一意識です  
僕「君達の目的は達せらるか



トルストイ信者「私共は非常の覺悟です、二十年の逆境を覺悟して天國を叫ぶ積りです、日本はクリスト教に由つて救はれんければならないです

僧「貴下の方は新らしく聞へて傳教に便利でせう

(十三) 詩人徒

一婦人「妙なる夢を見たいと思ひます

僕「どんな夢だい

一婦人「どんな夢つて、貴下誰れが一番御好きですか、バイロン、スコット、セキスピヤなどどうです。スコットのユミユリオンに於けるツウ

イード流のけしきは可いじやありませんか

僕「詩文は可いです

一婦人「社會の生命は詩です殊に外國の詩です、洋々たる大河の源を

尋ねると一線の小川が蒼々たる巖根の間から潺々たる音して雜草を推し除けて流れて來つゝありますこれが詩です

(十四) 試験徒、一名下宿屋籠城組

下宿屋主人「貴下の御拂ひは何時ならば出來ますか

書生「茲年の試験は吃度だ

下宿屋主人「貴下は高等官試験は御止なさい。悪いことは言ひません、貴下方の友人は十四五人もありませう爾うして十年間も試験を受けて及第したのは僅か二人でせう、神田本郷かけて此試験幽靈のため下宿屋の喰倒さるゝものが何千人といふ程あります

僕「コー主人よ茲年丈は待つて遣るが可い

(十五) 主義僕

僕「君は堅固な人です



有志家「僕は風の吹回しで東西南北する風車ではない渴しても盗賊の水は飲まないさ

僕「それは甚だ宜しいそれでも困りませう

有志家「困らないです

僕「うん感心だその變り十年間は逆境に立たねばなるまい若し君出來能は、どうリセリウ主義といふ乃ち御都合主義を採つては

有志家「そんな事は御免蒙る

僕「君の如き人物は日本には滅多にはないよ

(十六) 乞食徒

浪人「手段は何でも構ふものか清い濁るのそんなげじめがあるものか人の悪口位は蚊の泣く位だ

倫理家「社會に立てませんぞ

浪人「立てなければ座つて居るさ

倫理家「人の体面が

浪人「体面も何もあるものかい乃公の未來は世界の大人物になるのだ人の悪口位が氣になつて善も悪も濟度の出来るものかい

僕「浪人殿大に余の意を得た本日から僕の身分だぞ

東洋のマンロー主義

少壯代議士「我輩は日本のマンローである

僕「日本には大統領がないから

少壯代議士「乃公は宰相的マンローである

僕「面白い

少壯代議士「我輩の宿論をいつて見やう



僕「宜しいいつて見給へ乃公が批評を加へて遣るから

少壯代議士「馬鹿に高く留るではないか

僕「留つても可い

少壯代議士「貴様が余り高く留るからさ

僕「人間の口から出ることに凡べて其動機といふものがある。批評を

して遣るといつたのが癢に問るなら癢に問らないやうに一滴の水

を與へる乃公は元來世界一統論の實行者であるのだ。マンロー主義

の如き積極的保護主義のものは筋道が大に違ふて居るさ

少壯代議士「それでも君は一回の演説も仕ないで實行云々とは可笑

い

僕「今君に世界一統論云々いつたのは即ち演説さ

少壯代議士「社會公衆に對して

僕「君等の如き口舌の小使にはならないさ

少壯代議士「どういふ方針で

僕「克く言ふものは克く行はす

少壯代議士「言はないか

僕「フア……………」

少壯代議士「それならば乃公のマンロー主義の方針計畫を物語りしや

う。乃公の方は天然徒であるナシヨナリズム的であるのだ。黄色人種

は黄色人種で支配せよ。白色人種は白色人種で支配せよ。いふのだ

而して黄色人種中の強者は日本で元より強者弱者を支配するは天

則であるから日本が黄色人種の主権者になれといふものであるの

だ

僕「ハア一分つた



少壯代議士「それで之を實行するには蠻力を振つて白人の干渉を掃蕩せよといふのだ

僕「それは可い

少壯代議士「感服したか

僕「決して

少壯代議士「何故

僕「何故つて乃公の方が未だ太いものがあるから

少壯代議士「何

僕「人間の力は月の上るのに汐の満つるやうなものだ、世界的の人間が出来ると其人の勢力は世界を浸して仕舞ふ。君が東洋のマンローならば乃公は世界のマンローだもの

少壯代議士「そんな大言は罷めだ僕の方の問題の實行としては此に

二の重要な問題がある(一)國力(二)外戦

(一)國力 國民の資本を國定しないやうにして而して種々の生産機關を起し農民の地租などを軽くして其力を休養し冗費を省いて有要に利用して年々國庫に一二億萬圓位の餘剩あるやうに仕たいのである

(二)外戦 この間佛人の書いた萬國史にも恁んなことがある。日本が朝鮮半島に野心のあるは、遠く神武皇后時代からであると洵に外人すらも朝鮮占領は我國歴代の國是であるやうにいふのである。然るに露國は近時滿州經營に成功し不日朝鮮半島を其羽翼の下に收めんとして居る日本は未だ露西亞が十分に滿州の足場の固まらぬに乗じて之を討つて退くの必要がある。それで我輩のマンロー主義は一つ此問題から着手して見たいものだ



僕「それは大に宜しい

少壯代議士「策は上等だろう

僕「日本人は筆と口は甘いが行は小供だから役には立たないさ而して恁んなに上流を拜んで斗り居て自治の精神の乏しい國民はないのであるて今や上流は皆生活宗で國家などいふ慷慨家は一人も居ない近い未來に於ては妙な音で瓦壊するか知れないぞ險難く

少壯代議士「爾う悲觀的に見るものではない

僕「イヤ君は二千圓の歳費と外に温い懐があるが乃公は一介の記者で浪々の身だもの

少壯代議士「ハア……………」

僕「ハア……………」

### 箱馬車

御者「私などはマ一米の値段は知らないです

僕「爾でせう

御者「馬車に乗つて肥馬に鞭打つ自ら意氣揚々たらざるを得ないんです

僕「晏氏の御者の昔話などは氣に懸んが可ろう

御者「それも物の比較です相談ですな同じ人間でも土方の長に追使はるゝものもあれば米問屋或は受負師に頭を下ぐるものもあり殊に笑可しきは折角鬚を捻つて居ても僅か百圓内外の課長位に叱咤せらるゝ官吏もあるのだ然るに我輩は其馬車の主人は今日日本に何人と數へらるゝ大臣である且つ我輩が禮帽で馬車の前頭に腰



かけて居るも知らざるものは、時として我輩を大臣と間違へるものもある先づ世の中に第一の仕合ものといつて可からう

僕「や、其位の氣でなければ盲目者の奴隷にはなれまいね

御者「盲目とは誰だい

僕「誰でもない貴公の主人大臣の君だ

御者「フア……………」

僕「フア……………」

御者「さすが維新の元勳で幾度か弾丸雨中を飛んで来る男丈に眼球が違ふよ紫電一閃鬼神の如しといふ所があるです眼病ならば一度も煩つた事はなし盲目とは受取ません

僕「恁んな六かしい間ををいそらと解決の出来る君ならば、盲目人形の伴は仕ないよ

御者「君は學者だからいふことが詩的とかいふ意味のものだろう僕には分らん

僕「ヨシ〜教へて遣る

御者「へー

僕「人間の世の中は三角形を立てたやうなもので上にゆくほど世間が狭いものである、だから聰明慧智の聞えある人でも一たび龍門の榮に上ぼると屹度世間から悪口せらる、これは世間が狭いから、其欠點が克く明白になるのと又自分も交際範圍が其一部に限るので自然眼界が狭くなるのである。然るに此節の上流殊に大臣などいはる、君は甚だ不可マサカ人民から暗殺せらる、丈の値もなき身が御奢、侈と一に意味で勿体ないを付けて四面黒塗の馬車に乗りて只一方だけ少しく窓を明けて居る是では世間が狭い上丸で暗くしつゝ、



あるのて或意味に於て彼等を盲目の大臣と呼ぶも強ち無理でも勿  
ろう

### 料理の流行

老人「日本は潰おれです

僕「それはいふまでもない談ですが貴下の御觀察はどんな方面から  
いふのですか政治ですが宗教ですか社會ですか

老人「イヤ愚拙の家庭で

僕「大人の家庭は平和で堅氣であるのに

老人「小人と婦人とは養ひ難し

僕「どういふ譯で

老人「喰倒ほれた

僕「へー

老人「どうも今のものは不都合千萬だ衛生とかスイートとかへー

トか妙な語を使つて打喰ふことが競争です飽食暖衣滅亡だ  
僕「困りますな

老人「この間から喰道樂てふ本を台所で緋いて嫁も悴も小供も隣の  
嬢も打續いての大騒ぎだ日本人といふ奴は辛抱の出来ぬ國民だか  
ら昔から衣倒れ喰倒れといふことがあるのだ然るに此節は喰倒れ  
の方に向つて來た私の宅などは愚拙か矢石の間を侵して成功した  
御薩で生活には困らないのであるが、あんな事を今日の中以下の人  
民か遣つて見給へ一ヶ月経過せぬ中に家は潰れる噫困つた恁んな  
に流行する喰道樂に人となつたものをこれから猶奮發せねばなら  
ぬ青年の嫁に遣つても家は持ないし



僕「日本人は悪い癖です」

老人「愚拙などのいふことを非文明とか輕蔑して聞かないぞ」

僕「困ります男のハイカラも仕方ありませんが女のハイカラと來ては始末にならないです」

老人「全くです」

僕「困つた」

老人「一人の食物は其風土氣候人種に由つて異なるので西洋人が肉食するから日本人も肉食せねばならぬといふ道理は勿ろう豕好の支那兵よりは菜根を嚙だ日本兵の方が強かつたじやありませんか華族富豪の士女は皆立派の献立で、肉食をあし田舎の人民は常に粗末な仕方で菜根魚族を喰つて居るでも田舎人民の方が遙かに壯健です」

僕「今のものが美食のみで身体が強壯になると思ふは間違つて居る且つ修養時代に美食に飽いて居て居ては隋氣自ら人を殺し到底駄目であるのだ古人曰く肉食血を汚すとマサかそうでもあるまいが餘り飽食は成功上宜しいものではないです」

老人「あんな道樂書物は書いて貰はんことだ」

僕「それはどうですか」

老人「困る今時のものは、ハイカラだから利害と世間の手前をも知らんでどんな事をもするから」

僕「それは爾です中流以上の喰道樂先生方には今日細民の生活難は露程も知らないでせうが随分甚だしいことがあるです此間でしたつけ私は一夜深更細民の状態を探見しましたが牛込原町の片隅に赤い甲板を推立て、のであづきを賣つてるのがあつたから其處に」



飛込んで空腹を肥しながらゆであづきの主人と世間話を遣つたです。然るに彼のいふことが誠に胸を断つ斗りあわれでした。

旦那聞いて下さい。この節は一圓五十銭の家賃が拂へないです。私も三井鑛山部に勤めたものですが一寸した失敗から細民に墮落したのです。晝は店へ紙や燭燭筆木などを賣り夜は恁んなに夜店を張つて三時間位しか寐ないで一生懸命で遣つて居ます。それで二ヶ月経つても三月経つても五圓の金が残らないです。せめて一ヶ月の籠城費が出来ましたならば今日の悲境を斬抜けて何か新局面を開きたいと思つて居るんですが、それが出来ぬのです。而して私斗りではありません。車夫其他の細民殆んど一人として生活の爲にどの位涙で一日を送らぬものはないです。電氣鐵道市街鐵道が出来ましたならば十六萬の車夫は如何なるでせうかそりや且

那電車や鐵道に使はるゝとはいつたものゝ其一部乃ち千人か二千人位でせう何萬といふのは多く路途に迷ふのです。實に恁んなことを考へて見ますと同じ人間で同じ日本國民でそんなに立派の人斗りが智者でもないのに、彼等の多くは流行の如く避暑遊びに箱根鎌倉須摩日光あど出懸けて暑も何にも知らないといふのは實に幸福ですが、どうも一緒に國民として同じ舟に乗つて居るのにと思へば私は厭になりました。

老人「ウンそれに違ない

僕「困つたものです

老人「何とかせねば外から來なくても内から來る

僕「ナル程

老人「分りましたか



僕「乃公が起たねばなるまい  
老人「コ一貴下ですな

### 結 論

一上一下口舌時として玄を叩き鉤を探るの概があるのであろう或は  
又余りの突飛論もあるに違ない。  
されど人は方であるが圓ではない平たぐいへば彼れは不完全である  
五千年以來不完全といふ箱を出ることが出来なかつた  
勿論不完全なるこの本物なれども以上の議論批評で我五千萬同胞が  
日夕孜孜營々たる可き時務は大方指摘して居る積りであるその克く  
之に探ると否とは汝と汝である。

明治三十六年九月廿五日印刷

(定價金三拾五錢)

明治三十六年 拾月 九日發行



編輯者 東京市神田區小川町一番地 矢野 滄 浪

發行所 東京市神田區小川町一番地 與家 寛次 郎

印刷所 東京市芝區愛宕町一丁目十六番地 正文 舍

東京市神田區小川町一番地

發行所 明治中學院

大賣捌所

神田表神保町 東京堂  
京橋 東海堂  
京橋鎗屋町 北隆館



# 廣告

一 本院々外生既に數方に達したるを以て益々奮て本會を擴張する  
と共に院外生諸君の便を計り本院に更に取次部なるものを設置  
し講義録紙上へも便益取次欄なるものを設け左の事項を懇切丁  
寧に取扱ふべし

一 東京市内に於ける各教科書及び書籍類何品に限さらず無手数料  
にて購求の取次きをなす

一 學校用品一切諸器械類及び農具に至る迄購求取次き

一 衣類洋服類、靴類等の注文取次

一 醫師の紹介及び病院に入院するもの、盡力及び患者等は地方に  
在りて東京名醫の藥品を請はんとするもの等の爲め病性を詳細  
に通知せば調劑の依頼をなすこと

右は凡て院外生諸君の便益を計りたるものなるを以て決して手数料を要せず但し代價  
は實費にして往復の返信料は三錢の切手を封入せらるべし

其他地方に於て東京の事情を知らんと欲せらるゝ事項は急速を要するものは切手封入  
なれば直ちに返信し急速を要せざるものは講義録紙上便利取次ぎ欄に掲載廣告して報  
告すべきに付何事にも申込するべし尚本欄には地方に於ける面書き出來事（政治以  
外）をも掲載して諸君に報告するものなるを以て續々通信ありたし

## 便益取次部

本院外生既に數方に達したるを以て益々奮て本會を擴張する  
とと共に院外生諸君の便を計り本院に更に取次部なるものを設置  
し講義録紙上へも便益取次欄なるものを設け左の事項を懇切丁  
寧に取扱ふべし

一 東京市内に於ける各教科書及び書籍類何品に限さらず無手数料  
にて購求の取次きをなす

一 學校用品一切諸器械類及び農具に至る迄購求取次き

一 衣類洋服類、靴類等の注文取次

一 醫師の紹介及び病院に入院するもの、盡力及び患者等は地方に  
在りて東京名醫の藥品を請はんとするもの等の爲め病性を詳細  
に通知せば調劑の依頼をなすこと

右は凡て院外生諸君の便益を計りたるものなるを以て決して手数料を要せず但し代價  
は實費にして往復の返信料は三錢の切手を封入せらるべし

其他地方に於て東京の事情を知らんと欲せらるゝ事項は急速を要するものは切手封入  
なれば直ちに返信し急速を要せざるものは講義録紙上便利取次ぎ欄に掲載廣告して報  
告すべきに付何事にも申込するべし尚本欄には地方に於ける面書き出來事（政治以  
外）をも掲載して諸君に報告するものなるを以て續々通信ありたし



# 廣告

一 本院々外生既に數方に達したるを以て益々奮て本會を擴張する  
 一 本院外生諸君の便を計り本院に更に取次部なるものを設置  
 一 講義録紙上へも便益取次欄なるものを設け左の事項を懇切丁  
 一 寧に取扱ふべし  
 一 東京市内に於ける各教科書及び書籍類何品に限きらず無手数料  
 一 にて購求の取次きをなす  
 一 學校用品一切諸器械類及び農具に至る迄購求取次き  
 一 衣類洋服類、靴類等の注文取次  
 一 醫師の紹介及び病院に入院するもの、盡力及び患者等は地方に  
 一 在りて東京名醫の藥品を請はんとするもの等の爲め病性を詳細  
 一 に通知せば調劑の依頼をなすこと  
 一 右は凡て院外生諸君の便益を計りたるものなるを以て決して手数料を要せず但し代價  
 一 は實費にして往復の返信料は三錢の切手を封入せらるべし  
 一 其他地方に於て東京の事情を知らんと欲せらるる事項は急速を要するものは切手封入  
 一 なければ直ちに返信し急速を要せざるものは講義録紙上便利取次ぎ欄に掲載廣告して報  
 一 告すべきに付何事にも申込まるべし尙本欄には地方に於ける面白き出來事（政治以  
 一 外）をも掲載して諸君に報告するものなるを以て續々通信ありたし

## 便益取次部

實業界青年の指針

### 實業教育會會員募集廣告

○文學博士高楠順次郎先生東京高等商業學校教諭中島鐵二郎先生外現代知  
 名家二十餘名の口演 ○内外國要地に有力なる商況通信員を設く

一ヶ年卒業毎月十五日發行 菊版百五十頁以上 体裁完美口繪美術繪付

- 商業學 ●商業歷史 ●商業地理 ●商品學 ●商業算術 ●商業簿記 ●商業作文
- 銀行實務 ●經濟學 ●自治行政 ●農政學 ●畜生學 ●森林學 ●養蠶學 ●水産
- 學 ●作物栽培論 ●會費一ヶ月金貳拾錢
- 一ヶ年前納金貳圓也

### 講師 學期 學科 學費 内容

本講義録ノ内容ハ右ノ目的ヲ達スル爲メ毎號博士學士ノ他商界知名大家  
 ノ論說ノ講話ノ經歷談ヲ掲ゲ特ニ講義ハ解説諄々、一讀了解シ得ベキ言文  
 一致ノ平易ナル文体ヲ用ヒ、ソノ他文苑、交詢、質疑、思想、筆戰ノ各欄ハ、  
 活火炎々タル講習生諸君ノ抱負ヲ表ハシ、手腕ヲ揮フノ爲ニ供シ詩、歌、  
 俳、美文、韻文等ハ無料添削ノ勞ヲ執リ、時々賞ヲ懸ケテ傑作ノ出ルヲ獎勵  
 スル等、商業講義録ニシテ、文學實業雜誌ヲ兼ネタル、實ニ本邦唯一ノ完  
 全ナル講習書ナリ

東京市神田區  
 小川町一番地

明治中學校  
 附屬實業學校內

實業教育發行所



# 學期

(一) 年々卒業

每月百五十頁以上

(二) 廿五日

一回發行各講師ノ寫真付キ

●本院講義録ハ今般第一期ヲ終ヘタルヲ以テ第二期及ビ新學期ヲ開設シ併テ此際大擴張大々的募集ヲナス此好時機ヲ失サハズシテ至急入會申込アレ

言文

## 一致 中學校講義録

自宅獨習  
通信教授

●講師ハ斯道ニ熟練ナル博士學士數十名其他博士學士ノ科外講演及ビ補購者數十名アリ  
●尙各種學校ノ入學試驗問題ノ解答●寄書文苑欄●交詢欄●質問欄●筆戩欄等アリ

### 特典

●會員ニハ徽章ヲ贈與シ優等者ハ毎回三十名ヲ限リ學費ヲ貸與シ卒業生ハ各學校ニ入學ノ助力及ビ各就職ノ紹介ヲナス

●本院ニ意ヲ盛況ニ達シタルヲ以テ本月ヨリ機關雜誌ヲ發行シテ會員諸君ニ配布ス

東京神田小川町

私立 明治中學院



